

平成25年6月5日招集

茂原市議会定例会会議録（第2号）

議事日程（第2号）

平成25年6月12日（水）午前10時00分開議

第1 一般質問

- (1) 細谷 菜穂子 議員
- (2) 小久保 ともこ 議員
- (3) 山田 きよし 議員
- (4) 竹本 正明 議員
- (5) 前田 正志 議員

茂原市議会定例会会議録（第2号）

平成25年6月12日（水）午前10時00分 開議

○議長（腰川日出夫君） おはようございます。ただいまから本日の会議を開きます。

現在の出席議員は24名であります。したがって、定足数に達し会議は成立しました。

————— ☆ ————— ☆ —————

議 事 日 程

○議長（腰川日出夫君） 本日の議事日程はお手元に配付してありますので、それにより御了承願います。

————— ☆ ————— ☆ —————

一 般 質 問

○議長（腰川日出夫君） それでは、これより議事日程に基づき議事に入ります。

議事日程第1「一般質問」を行います。

今定例会の一般質問通告者は9人です。

本日は質問順位1番から5番までとします。

発言に入る前に申し上げます。質問者は、質問内容を簡明に述べるとともに、答弁者はその内容を的確に把握し、明確な答弁をされますようお願いいたします。

なお、質問時間は答弁を含め60分以内となっておりますので、御了承願います。

それでは、順次、質問を許します。

最初に、細谷菜穂子議員の一般質問を許します。細谷菜穂子議員。

（13番 細谷菜穂子君登壇）

○13番（細谷菜穂子君） 皆様、おはようございます。自由民主党の細谷菜穂子でございます。多くの市民を代表いたしまして、質問をさせていただきます。

茂原市議会改選後、初の一般質問でございます。市長をはじめ、当局の皆様、よろしく願いをいたします。

昨年12月、経済、そして防衛、教育を柱として安倍政権が誕生をいたしました。あれから半年たち、2日前の6月10日、内閣府の発表によりますと、国内総生産（GDP）4.1%増という数字を出しました。そしてまた、企業の倒産の件数も8.97%減ってきておるといふ数字を出して、景気が上向いてきたということをはっきりと結果を出しております。報道もありました。

企業の内需拡大を図り、そして企業をさらに元気にし、雇用の創出、働く場の確保をする、

そのことによって少子高齢化、そして人口減少問題を克服する、この雇用の創出というものがその重要なポイントになるわけでございます。

現在の日本は、30秒に1人子供が生まれ、25秒に1人亡くなっているという現実でございます。出生率も1.41%と少し上がってはまいりましたが、この人口減少を解消するには2.07%まで上げないと解消できないと言われております。

若い世代の働く場の確保が家計の安定につながるわけでございます。アベノミクスの成長戦略によって家計が潤う強い経済の復活、さらに震災復興、TPP、憲法改正、これからは正念場でございますが、自由民主党は地方行政により考える、この我が茂原市においても予算を国から回してもらっている、そのおかげで耐震化の問題、そして道路の舗装など、潤っているわけでございます。

通告によりまして、一般質問をさせていただきます。

私が今回質問をいたしますのは、市民生活についてでございます。6項目質問をさせていただきます。

まず初めに、生活排水溝の整備でございます。道路の排水溝の整備について、茂原市は東郷地区あるいは東茂原の地区、清水、粟生野など東側の地区が排水溝の問題があるのではないかとこのように思っております。過去5年間の中で何件くらい排水溝の要望が出ていて、その要望を達成したのはどれくらいなのか、まずお伺いをいたします。

それから、(2)道路側溝の蓋についての整備についてお伺いをいたします。側溝の蓋の設置の要望は、同じく過去5年間でどれくらい出ていて、どれくらいの達成をしているのか、これについてもお伺いをいたします。

次に、(3)空き地に捨てられているごみの扱いについて質問をいたします。建物が建っていない、空いている土地に捨ててあるごみ、どういう形できれいにしているのか。市の土地と、それ以外の私有地があると思えますけれども、市としてはどういうふうにそれを対応されているのかお伺いをいたします。

(4)といたしまして、買い物をしながら人が集まれる居場所づくりについて質問をいたします。高齢化がますます進む中、見守りということも考えながら、買い物をしながら人が集まれる居場所づくりができないものか。民間で行っているスーパーももちろんありますけれども、茂原市においては「ねぎぼうず」があります。あるいは民間ですけれども、「わくわく」の広場、長柄町には道の駅等々ございますが、そういうふうに生産者と消費者が一体になって、今、フランス語らしいんですけれども、マルシェというのがブームになっております。茂原市でも

5月5日、まるまるマルシェということで市役所の南側広場でイベントが行われましたけれども、2000人の人が集まったということでございます。新鮮な野菜を何とか町場で、団地のほうでそれを売るとか、行政側と生産者側と一体となったようなものがないものだろうか。市としての対応をお伺いいたします。

次に、市民アンケートについてお尋ねをいたします。社会の流れが多様化になる中、千葉県では世論調査というものを行っております。5日前の7日の千葉日報の一面にも、この世論調査のことが載っておりました。県民3000人対象、1500人の回答があったということで、成果は上がっているということでございます。我が茂原市においても世論調査をやってはどうか、そのことについてお伺いをいたします。例えば子育てについての市民アンケートとか、何々についてのアンケートとか、そういったものは各課で実施をしておりますが、全体の世論調査の実施、全国では56市が世論調査、あるいは意識調査としてやっております。千葉県を見ますと、県内では八街市、四街道市、鎌ヶ谷市、佐倉市、木更津市、船橋市、銚子市と7つの市で実施をいたしております。市政の意識調査、世論調査を実施することについて、当局はどのようなふうにご検討されているのか見解をお伺いいたします。

次に、若い世代の定住促進についてでございます。20代から40代の若い世帯の定住は、茂原市も人口が減りつつありますが、人口を増やすには若い世帯が定住してくれることが一番の要であります。この若い世帯の定住の促進を市としてはどのように捉えておられるのか、まずお尋ねをいたします。

以上で1回目の質問を終わりにいたします。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの細谷菜穂子議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。
市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 細谷菜穂子議員の一般質問に答えさせていただきます。

私からは市民生活について、買い物をしながら人が集まれる居場所づくりについてという質問でございますけれども、「ねぎぼうず」や「わくわく」などの広場をもっと農産物生産者と民間と協力しながら増やす考えはないのか、こういう御質問でございます。「旬の里 ねぎぼうず」は平成16年にオープンして、多くの消費者から支持を受け、地産地消に貢献し、平成20年度には道路北側に花、植木部門を増設しております。しかし、全盛期に比べ、徐々に売り上げが減少しているのが現状であり、その要因を検討した結果、直売所店舗数の増加に伴う消費者の分散があるのではないかと考えられます。今後は、集客力を確保することが重要であり、低

農薬、低化学肥料によるエコ農産物の拡大や加工品等の新たな商品開発等に取り組むこととしております。市といたしましても、このような取り組みに対し積極的に協力していくこととしておりますが、新たな増設等につきましては、現時点では考えておりません。

なお、以前、ひめはるの里の入り口付近で第2の「旬の里 ねぎぼうず」を検討したこともありますが、商品が集まりきれない、このような理由などでいまだに開設ができない状況であります。

それから、市民アンケートの実施について、千葉県では夏と冬に年2回、県民3000人に県民アンケートを昭和50年から毎年実施しているが、茂原でもやったらどうかと、こういうことでございます。県では県政に関する世論調査を定期的実施する一方、総合計画等の計画策定に際し、県民アンケート調査を実施しております。本市におきましても、後期基本計画の策定にあたり、平成20年に市民アンケート調査を行うなど、新たな計画の策定や各種計画の見直しに際しまして、必要に応じましてアンケートやニーズ調査などを実施しております。また、市民各層の意見や要望を市政に反映させる手法として、市長と話し合う会や市長への手紙、メール、また、市民ふれあいミーティング、パブリックコメントなどを行っておりますので、御提案の定期的な市民アンケートの実施につきましては、現在のところ考えておりません。

茂原市の市民アンケート、平成20年に回収率が48.6%でございますが、3000人に対してやっております。それから、平成11年にもやっております。また、男女共同参画計画第2次においても、平成20年ですけれども、これもやっております。このような形で、その都度、その都度やっているのが事実でございます。

次に、若い世帯の定住促進についてであります。20代から40代の若い世帯の定住は人口増加の要になる。この若い世帯の定住促進を市はどのように捉えているのか、こういうことですが、少子高齢化、さらには人口減少が進む中、地域のにぎわいや活力の担い手である若い世代の定住を促進し、そのための有効な施策をいかに講じることができるか、非常に重要な課題であると認識しております。私といたしましては、企業誘致の推進などにより雇用の場の創出や税収の増加を図りながら、若い世代の移住や定住支援、子育て支援など中長期的な視野に立ち、さまざまな角度から施策を講じてまいりたいと考えております。

いろいろと施策を打ちたいんですが、まだまだ当市の負の資産は、私が就任したとき778億円、800億円近くありましたけれども、この5年間で150億円ほど減ってきておりますが、まだ630億強もございます。思い切った市民サービスへ向けた施策が今まだ打てる状況ではないと、こういうところもかんがみて、いろいろと施策を打ちたいと思っておりますが、なかなか難し

い状況だということで御理解をしていただきたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

（都市建設部長 鳩川文夫君登壇）

○都市建設部長（鳩川文夫君） 都市建設部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

市民生活について、生活排水溝及び道路側溝の蓋の整備について、設置の要望は過去5年間で何件出ていて、達成件数はどれくらいかとお尋ねですが、道路や排水等にかかわります自治会などからの各種の要望につきましては、緊急性や安全の確保等を考慮し対応しているところでございます。御質問の道路排水溝の要望につきましては、過去5年間では78件の要望に対し8件が実施済みとなっております。また、側溝蓋の設置要望につきましては、44件の要望に対し39件が実施済みとなっております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

（経済環境部長 豊田正斗君登壇）

○経済環境部長（豊田正斗君） 経済環境部所管にかかわります御質問に御答弁をさせていただきます。

市の土地に捨ててあるごみ、または市以外の土地のごみはどのように対応しているのかという御質問でございますが、空き地に捨てられているごみ、いわゆるポイ捨てごみにつきましては、茂原市ポイ捨て防止条例に基づき、ポイ捨て防止について啓発を行うとともに、土地所有者に対しては、ポイ捨てが行われないようにするため必要な措置を講じるようお願いをしているところでございます。ポイ捨てされたごみの取り扱いにつきましては、土地所有者の管理責任となりますので、市の土地であれば所管課、市の土地以外であれば、その土地の所有者の方に対応をお願いしております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ありがとうございます。

生活排水溝、道路排水溝の整備について質問いたします。過去5年間で78件の要望に対して70件が結局未達成ということでございますが、その具体的な理由をお願いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 当局の答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 70件が未達成になっているが、具体的な理由はどのことですが、道路排水整備の要望につきましては、道路の冠水の状況ですとか、排水路の利用の形態及び悪臭や蚊の発生などの環境面等を総合的に勘案した中で整備が必要な箇所を選定しまして実施しているところでございます。未達成の理由といたしましては、現在、道路や橋梁などの土

木施設についての経年劣化が進んでおり、その維持補修が急務となっていること、また、子供たちへの安全を確保するため、歩道整備や区画線の引き直し等についても早急な対応が求められておりますから、排水整備などの事業に振り向ける予算が限られてしまい、事業が進捗しない状況でございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 要望している市民は、早期の整備を望んでいるわけでございます。その要望している市民の皆さんで、ある地区においては、お金を出し合ってポンプを買って、ポンプでくみ上げて流しているとか、そういうところもあるわけでございます。ある程度の整備計画を要望者に示すべきではないかというふうに思います。

それから、担当部署が現地を見ているのかどうか、そのあたりもお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 当局の答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 生活排水溝等の整備について計画的にやったらどうか、また、市民の方たちにどうなっているのかというのを報告する、それと現地の確認はどうなっているかということについてお答えします。道路排水整備につきましては、先ほども答弁いたしましたが、種々の状況を勘案しながら整備箇所の選定を行い、実施3か年計画に位置づけ実施しているところでございます。

整備の時期を市民の皆さん方に示すべきではないかということでございますが、要望に来られた際に、これまでの要望箇所が非常に多いことや、限られた予算での執行であることを説明いたしまして、実施までには時間がかかることについて御理解を求めているところでございます。しかしながら、道路排水整備につきましては、生活に直結する切実な要望でございますので、できるだけ多くの市民要望に応えられるよう努めてまいりたいと考えております。

また、現地の調査につきましては、市民の要望があったときに確認に行く、それと、晴れた日だけではよく分からない面もございますので、雨が降ったとき等に定期的に巡回しながら現場を把握しているところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 過去5年間の数字ということで先ほどはお伺いしていますけれども、今までに、要望が出ているのがどれくらいあって、そしてどれくらい達成しているのかお伺いをいたします。

それからまた、現地を見るということは要望が出てから云々ではなくて、担当の部署が見てあげるサービスをしてあげるべきではないかと思えます。いかがですか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 5年間でなくて今までの要望件数についてどのくらい出ているのかという質問ですが、今、私どものほうで把握しているのが、平成13年からの要望という形でデータを整理してございまして、平成24年度までの要望箇所につきましては、全体で246カ所、延長にしますと23.2キロの要望が出てきております。そのうち整備した箇所につきましては60カ所、延長にして2.5キロでございます。残りが186件、延長にして20.7キロが要望されて未実施となっているところでございます。

現地の調査につきましては、排水整備、土地等が昔からの状況であれば、大体皆さん方から246カ所の要望でほぼ満たされているんだろーと思っておりますが、新たに開発行為が行われたりですかと、そういう新たな事情によりまして水の流れの形態が変わったりして新たな設置要望が出てくると、そういうようなこともございますので、そういったものについては、できるだけ市内をパトロールするときに把握してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 186件が未達成ということでございますが、先ほど来の市長の答弁にもありましたけれども、幸い、茂原市は企業のことで少し明るいことが出てきておりますが、その辺の企業からのお金、そういったもので市民サービス、こういうふうな整備に回せないものか、その辺ももう一遍お伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 新たな税収増等が見込まれるので、その辺を生活関連事業に回していただけないかという趣旨でございますが、来年度の予算に関しましては、排水整備などの生活関連事業につきましては要望も非常に多く、市民生活に直結する重要な事業でございますので、できるだけ多くの市民要望に応えられるよう努めてまいりたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） (2)の側溝の蓋についてでございますが、過去5年間で側溝の蓋の実施をしていないところの場所がわかれば教えてください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 過去5年間での未実施箇所が5カ所ございますが、上永吉、本納、南吉田で各1カ所ずつ、東郷地区に2カ所の計5カ所でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） これは道路の側溝の蓋ですけれども、茂原市内の通学路がござい
ます。文部科学省と国土交通省との昨年の緊急合同点検、その結果、ニュース等の報道では、全
国では57.3%達成したということでございますが、この茂原市は通学路、蓋の整備、どれくら
い達成しているのかお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 通学路の緊急合同点検に対する達成率でございますが、合同
点検による対策の必要な箇所が、これは側溝蓋だけではないんですが、166カ所ございまして、
そのうち平成25年3月末、平成24年度末で122カ所が実施済みとなっております。全国は57.3%
ですが、茂原市の達成率は73.5%ということになってございます。また、166カ所のうち本市
で対応すべき箇所につきましては96カ所でありまして、そのうち81カ所が実施済みであります
ので、達成率は84.4%というふうになっております。側溝蓋の設置については、6カ所の要望に
対しまして4カ所が実施済みとなっております。残りの2カ所につきましては、今年度から
計画的に設置してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） なぜ大事かといいますのは、事故があつてからでは間に合わない
ということでございます。一番大切な命という、事故があつてからでは間に合わない、そのあた
りもよろしくお願ひしたいというふうに思っております。それは要望で結構です。

次の(3)に移ります。空き地に捨てられているごみの扱いについてでございますが、本市で
は、ポイ捨て防止に必要な措置として、看板を配布している、要望があれば渡しているという
ことだと思いますが、昨年のその看板はどれくらい渡っているのか、どれくらい立っているの
か、お伺いをいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 昨年度の看板の配布枚数の実績はという御質問ですけれども、
本市では、ポイ捨て防止、不法投棄防止の2種類の看板を用意しております。そして、必要に
応じて配布しております。昨年度の実績は、ポイ捨て防止看板が32枚です。そして、不法投棄
防止看板を41枚配布しております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ポイ捨て防止看板が32枚ということでございますが、あまり目立た
ないですね。それは実際何枚あつて、もっと立ててもいいのではないかというふうに思いますが、
不法投棄もそうですが、啓発が足りないというふうに思いますが、枚数とそのあたりもも

う一回お伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） ごみの不法投棄につきましては、多少なりですけれども、年々量が減っておりますので、その辺で、枚数を多く配布していないという状況だと思います。例年、自治会の役員が変わりますけれども、そのときにこういう看板がありますのでということで、そういう席で啓発して、困っている箇所につきましてはそういう看板を配布してはいかがですかということを申し述べておりますので、またさらにあらゆる席でこういう看板がありますということで啓発に努めてまいりたいと思います。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 不法投棄だけではなくポイ捨ての看板はどうなっていますか。お伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） ポイ捨ても、ごみゼロ運動等で実際ごみの回収等を行っているんですけれども、以前と比べて量的には多少減っております。よく朝も、民間の方が自宅の周辺ですとか会社の周りのごみを拾ってくれたりとか、そういうこともしておりますので、そういう面で、ある程度ごみのポイ捨てをやってはいけませんよということが浸透してきているのではないかと思っています。正確な数字についてはつかめていないんですけれども、状況としては減っている状況だと思っています。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ごみゼロ運動等、地域の方、いろいろな方で、きれいな茂原市ということを打ち出していかななくてはいけないというふうに思います。

それから、空き地に捨てられているごみなんですけれども、少なくなっているというお話ですけれども、不法投棄された場合、その対応をお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 不法投棄された場合の市の対応はということでございますが、本市においても、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンやパソコンなどのリサイクル家電を中心とした不法投棄が後を絶たず、対応には苦慮しているところでございます。不法投棄を発見した場合に必要な応じ、県または警察に通報するとともに、市のほうも土地所有者を調べ、早期に連絡をとりまして、不法投棄が行われないよう、先ほど申しました看板の設置等の対策を講じるように指導はしております。また、不法投棄の監視員制度を設けておりまして、地域から

不法投棄監視員20名を委嘱いたしまして、定期的に市内をパトロールしていただいております。不法投棄を未然に防止するほか、早期発見に努めているところでございます。今後も関係機関及び地域住民との連携により、新たな不法登記の防止に努めていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 不法投棄監視員20名という数字でございますが、市内、どこの地区におるか、わかれば教えていただきたい。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 旧町村単位で10地区に分けてありますので、各地区おおむね2名ずつの選出という形になっております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） きれいな町ということですので、皆さんで協力してやっていけたらというふうに思います。

それでは、次に移ります。(4)買い物をしながら人が集まれる居場所づくりですけれども、「旬の里 ねぎぼうず」はオープンから9年目を迎えておるわけでございます。全盛期に比べまして多少売り上げが減少しているというふうなお話でございますが、どれくらいなのかお教えください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 「ねぎぼうず」の売り上げについてでございますが、「ねぎぼうず」につきましては、オープンしたのが平成16年でありまして、年度途中でオープンしましたので、その当時の売り上げがほぼ1億円でございました。そして4年目の平成19年がピークでございまして、このときに2億1300万円売り上げております。それから以降は、4年間、ほぼ2億円という金額が続きまして、その後、徐々に落ちております。というのは、近隣に直売所等が増えて、新しい直売所ができておりますので、そのようなことで客数もそちらのほうに分散されたのかなというふうに考えております。ちなみに、今年の売り上げは1億9500万円ほどとなっております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 売り上げが減少しているというのは、本納という土地で、生産者が多いというところの場所ということもあるのかもわかりませんが、行政と生産者が一体になって、居場所づくりも含めてのお店、そういうものが町の中、例えば緑ヶ丘団地はスーパ

一が去年に撤退をしてしまっておりますので、地元の買い物をするのにも困っておる。あるいは緑町とか、団地にそういうものがあると、非常に高齢者、あるいは主婦も助かるわけですが、私はよく「ねぎぼうず」も利用させていただいております。あるいは町中に最近、マルシェということで直売所みたいなものができておりますが、よく買い物に行きます。新鮮なものを安く、そして語らいの場所ということで非常に有効的だと思いますが、日本でも、生産者と消費者と行政と一体になってやる、そういうのが注目されておりますが、もう一遍、そのあたりを当局としてはどういうふうに捉えているかお伺いをいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 議員がおっしゃられたように、そういう施設、人が集まる場所というのは必要だとは思っております。しかしながら、茂原市の農業の実態を見てみますと、米作が中心となりまして、そのほかにはネギ、トマト、キュウリ等、非常に品薄でございます。で、「ねぎぼうず」のように店舗を構えて、地産地消で品物を持ってきて、1年間を通して販売するという事は、それぞれに多くの店舗をつくるというのがなかなか難しい状況でございます。ですから、そういう中で、議員おっしゃった、高師の交差点のところにマルシェ、そういう民間での施設も一例としてできておりますので、行政としては、そのような食の安全・安心ですとか、そういう面で情報提供を密にして、民間の施設を有効に使っていただくような手立てを心がけたいと思いますので、御理解のほどよろしくお願いたします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 生産者は茂原市だけに限らなくてもよいと思うんですけども、郡部の生産者と提携をしながらというふうなことも十分に考えられることだというふうに思っております。身近に頼れる場所、居場所づくり、これはなかなか大変なことですけども、最も大切なことであると思っております。先ほどから言っているように、行政と民間と生産者と一体になってできるものが団地の中にある、それが一つの話題性にもなって人が寄る。人が寄れば、そこで語らいができる。そのあたりも、もう一遍お伺いをいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 議員のおっしゃったこと、そのとおりだと思います。ただ、郡内にはそれぞれ直売所というものが、白子町でも長柄町でも睦沢町でもいろいろなところでできておりますので、その辺のところと競合するところもできてまいりますので、今後は、できるかどうかはわからないんですけども、周辺と連携しながら、そういう方法を模索してまいります。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） それでは次に移ります。(5)市民アンケートの実施についてでございます。先ほど来、世論調査ということではしておりますが、市長と話し合う会、ふれあいミーティング、市長への手紙、パブリックコメントとかいろいろとあるわけでございますが、どれくらい出ているのか、わかれば教えてください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 市長と話し合う会、市長への手紙などの具体的な内容と件数との御質問ですが、平成24年度の内容ですが、市長と話し合う会につきましては年2回、市民室と本納公民館で開催し、合計で88名の方々の御参加があり、その内容は、市民自治や都市基盤に関する御意見、御要望を多くいただいております。次に市長への手紙でございますが、郵送や電子メール等でいただいております。昨年度は125件のお手紙がありました。また、市民ふれあいミーティングでは年2回の開催で、12名の方々の御参加をいただきました。いずれも若者の雇用対策、高齢者施策、教育問題や道路関係等の御意見、御要望を多数いただいております。次にパブリックコメントにつきましては、6件の案件について募集を行い、14人、1団体の皆様から96件の御意見をいただき、各種計画や各条例の策定に反映させていただいたところでございます。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 部分、部分のものになってしまうと思いますので、全体が見えてこないというのが一番の盲点ではないかなというふうな、盲点という言い方が適切かどうかはあれですけども、思っております。世論調査ということになりますと、全体が見える、それが大きなメリットでございます。ですから、県のほうも昭和50年からずっと続けて実施をしていることだろうというふうに考えられますが、もう一遍お尋ねいたしますが、市としていかがでしょうか。御提案申し上げます。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 定期的なアンケートは現在のところ、先ほども申し上げたとおり、考えておりませんが、各種計画の策定の際には、できるだけアンケートを実施し、その施策に反映させてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 最後の(6)、若い世帯が定住をしてもらうにはどうしたらよいかということが茂原市の喫緊の課題であると思っておりますが、雇用の場と子育て支援、先ほどの御

答弁でもありましたように、少し詳しく茂原市の対応を、働く場と子育ての支援についてお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 雇用の場の創出や子育て支援の具体的な取り組みはどの御質問でございますが、雇用の場の創出につきましては、沢井製薬やジャパンディスプレイなどの企業訪問時において、できるだけ市内の方からの雇用をお願いするとともに、茂原にはる工業団地の完成を見据えた企業誘致活動に既に積極的に取り組んでおるところでございます。若い世代の移住や定住支援、子育て支援などに向けた具体的な取り組みにつきましては、人口減少問題プロジェクトチームからの報告をもとに、検討会議においてさらなる検討を重ね、平成26年度当初予算に反映させてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 沢井製薬とかジャパンディスプレイとか企業がなっておりますが、実際、茂原市民の雇用が何人か、数がわかれば教えてください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 具体的な人数はお示しできないんですけれども、実際、長生管内茂原市、重点的に沢井製薬もジャパンディスプレイも雇用していただいているということ聞いております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） 働く場が安定して初めて結婚もでき、そして家計が潤ってということになるかというふうに思いますが、茂原市は違うなというふうに、ほかの市と茂原市は違う、茂原市はいい取り組みをしている、だから住んでみようという若い世代が来なければ人口増は望めないわけでございます。ほかの市と同じようなことをやっていると、同じだと思うんです。全国的にもいろいろな取り組みがありますけれども、例えば赤ちゃんが生まれてお祝い金を渡す、あるいは品物を渡す、例えば茂原市の木はツツジですけれども、苗木をお渡しするとか、あるいはアルバムをあげるとか、いろいろな取り組みが全国的になされておりますが、財政が大変ということで少しずつ尻すばみのような傾向にもあるようでございますが、何か他市とは違う茂原市のいいサービスをしなければ望めないのではないのでしょうか。その辺をもう一遍お伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 細かい話になるんですけれども、私ども、4月1日、市民の

日というのがございまして、今年も1名いらっしゃるんですけども、本納の矢部画伯の絵馬というのを渡してございまして、その裏に市長の言葉などを入れて渡しております。そのほかにも、今後、赤ちゃんが生まれたときとか、転入してきた際に、そういうようなものを考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） やはり私は、保育サービスを厚くすることではないかと思うわけです。そのあたりはいかがですか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） その辺もかんがみまして、今後、いろいろな検討会議の中で検討してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ありがとうございます。今回の質問は市民生活全般ですけども、他市とは違ういいところを茂原市が見せる、そして人口を増やす、若い世代を増やす、それにはやはり働く場の雇用の安定ということでございまして、そのあたりを田中市長、非常に力を入れていただいてありがとうございます。雇用の安定、若い世代の定住、市長からのお言葉をいただければありがたい。よろしく願いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。市長 田中豊彦君。

○市長（田中豊彦君） 雇用の安定ということで議員から御指摘いただいておりますけれども、都市間競争はかなり厳しいものがございます。いろいろなところで話をさせていただいておりますが、特に東北、今回の震災等あった関係もありますけれども、福島も含めまして企業誘致に皆さん一生懸命でございます。そういった企業誘致をこの千葉県、この間、県の市町村会の中でも話させていただきましたけれども、千葉県は首都圏に近いという優位性があるためにゆっくり構えているといえますか、他市と比べますとかなりぬるいと言ったほうがいいのかもしれませんが、したがいまして、その辺も積極的に県も含めてやっていただきたいと、こういう話をさせていただきましたが、そういう点では、茂原市は、私が先頭になって今動き出しておりますので、ほかとは違うと思っております。したがいまして、その成果が沢井製薬、ジャパンディスプレイにつながったと思っております。この2社に関しても、まさに都市間競争でございました。沢井製薬は福岡県飯塚市、ジャパンディスプレイは愛知県と石川県。先方は、知事あるいは市町村長、みんな動いておりましたけれども、千葉県はなかなか動いていなかった、こういう理由がございますが、私のほうから積極的に動かさせていただき、何とか誘致にこぎ着

けた。人数のほうがどのくらいになっているかと、先ほどの質問ですが、それなりに雇用の場も確保されていると、こういう報告を受けておりますので、茂原市も含む長生管内、あるいは夷隅・山武からの雇用も茂原市に恩恵を被っているのではないかと考えております。今、千葉県の中では茂原市が唯一、工場の誘致に一番力を入れて、それが成果を表した、こういう自負もいたしておるところでございます。そういうようなことで、雇用の場が確保できないとなかなか定住というのは進まないと思っておりますので、それは積極的にやらせていただきたい。

それから、さっき財政の話をしていただきましたが、正直言いまして、まだ財政は厳しいです。150億円借金減らしても、まだ630億円近い負の資産が残っているわけです。1%金利上がると、6億3000万円です。今、国がああいう施策を打っていますので、いつハイパーインフレが襲ってくるかわからない、こういう状況もかんがみたときに……。

○議長（腰川日出夫君） 市長に申し上げます。時間になりますので、簡潔にお願いします。

○市長（田中豊彦君） つまり、そういうようなことで、保育サービス等もやっていきたいと思っておりますが、時間をいただきたいと、こういうことでございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。細谷菜穂子議員。

○13番（細谷菜穂子君） ありません。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） 以上で細谷菜穂子議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時05分 休憩

☆ ☆

午前11時15分 開議

○議長（腰川日出夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、小久保ともこ議員の一般質問を許します。小久保ともこ議員。

（2番 小久保ともこ君登壇）

○2番（小久保ともこ君） 公明党の小久保ともこでございます。初めての一般質問で大変緊張しており、お聞き苦しい点があるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

公明党は、大衆に基盤を置いた政党として結党され、以来、半世紀、これまで一貫して命を守る政治を目指して、お一人お一人の声を実現し、福祉政策をリードしてまいりました。政治の最も重要な役割とは何か、それは命を守ることです。一人一人を大切に、広げたい安心の笑顔をもっと、命を守る政治を推し進めてまいります。

それでは、これより通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

最初に、地域医療について伺います。

1つ目に、救急医療の充実について。従来、消防本部ごとに実施していた消防指令業務を平成25年4月から千葉消防共同指令センターで共同運用が開始され、各消防本部との素早い連携や情報共有が可能となりました。最新の情報通信機器の導入により、通報から現場到着までの時間短縮、傷病者の救命率の向上など、迅速かつ的確な対応が期待されます。以前、私の知り合いの方は、2時間救急車の中でつらい思いをされたと伺いました。救急医療の一層の充実を多くの市民は望んでおります。そこで、救急体制が今までと比較しどのように改善されたのか、現状と今後の取り組みについてお伺いします。

2つ目に、がん対策について。がんは死亡原因の第1位を占め、高齢者になるほどかかりやすいとされており、高齢化が進む本市におきましても、患者数がさらに増加することが予測されます。平成25年3月に千葉県がん対策推進条例が施行され、新しい千葉県がん対策推進計画が策定されました。この計画において、県と市町村や県民、医療従事者などの役割を明らかにし、患者とその家族ががんと向かい合いながら生活の質が維持できる社会づくりに向けて総合的、計画的に進めていくこととなっております。今までもがん対策、検診率向上などを公明党の議員が取り上げてきましたが、がん対策の取り組みについて2点お伺いします。

1点目は、がんにならないためには予防が大切ですが、予防のための生活習慣の改善指導はどのように取り組まれているのかお伺いします。

2点目に、検診で早く見つければ治る可能性が高くなります。現状の検診受診率と検診受診率向上に向けた取り組みについてお伺いします。

次に、子育て支援について伺います。

1つ目に、子ども医療費の助成拡大について。平成24年12月より入院医療費の助成対象者が中学3年生までとなりましたが、通院・調剤もゼロ歳から中学3年生まで拡充していただきたいと考えますが、御見解を伺います。

2つ目に、育児と仕事の両立支援について。ワーキングマザーに関するアンケート調査で、「育児と仕事の両立で最も悩むことは」との質問で、「子供の病気で遅刻や欠勤することがあり周囲に迷惑をかけてしまう」という答えが72%、「子供が病気の時でも他人に預けなければならない」という答えが37%、このように突然の子供の高熱や病気が仕事を継続する上での一番の悩み事となっており、病児保育が期待されます。

また、病児保育について多くの要望を聞いております。病児保育についてお伺いいたします。病後児保育室バンビーに病児保育を取り入れ、拡充する考えはないかお伺いいたします。

次に、マタニティステッカーについてですが、妊婦の方が車を運転中に後続車がスピードを出してあおるなど、怖い思いをされたと伺いました。交通安全を期すため、初心者マークのように、誰が見てもわかるようなマタニティステッカーの配布の検討をお願いしたいと思いますが、御見解を伺います。

最後に、住宅行政について伺います。

市営住宅について。住民の方より、住宅の傷みが激しく生活に不便をきたしているので修理してほしいという話を多く聞いておりますが、市営住宅の現状がどのようになっているのか、また、将来計画をどのように考えているのかお伺いします。

以上で1回目の質問を終わりにいたします。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの小久保ともこ議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 小久保ともこ議員の一般質問にお答えさせていただきます。

まず、地域医療についてであります。救急医療の充実について、救急体制が今までとどのように改善されたのか、現状と今後の取り組みについてということなんですが、長生郡市では、以前は二次待機病院において1カ月の半分近く、約13日くらいだったと思いますが、空白日でした。平成21年5月以降は、この空白日が解消されてきております。また、先ほど議員が2時間ほど救急車の中で待たされたと、こういうような話でございますけれども、いまだに改善されていない部分がございます。ただ、県の平成21年度の予算で、救急コーディネートシステムの構築に向けた予算がついていたのですが、なかなか履行されておりました。先般、医療再生本部会議の中で、私のほうから、一体いつになったらこれが履行されるのかという質問をさせていただきましたが、その結果、本年6月からは山武・長生・夷隅地域救急コーディネート事業が開始されてきております。これは夜間を中心に受け入れが難しい、特に三次でございますけれども、脳血管疾患、循環器疾患、重度の外傷の救急患者について、近隣医療圏の病院に迅速かつ適切に搬送できるよう改善が図られてきたところでございます。さらに、現在、地域医療再生交付金を活用し、救急機能の強化のため夜間急病診療所の改修と公立の長生病院の救急棟の建設を行い、救急医療体制の整備に努めておるところであります。一方、夜間救急医療において空白日は解消されたものの、一部の時間帯に空白時間があり、二次待機病院の努力によりまして、今、この空白時間を補っていただいておりますが、今後は、この空白時間の解

消や課題となっております産科・小児救急の充実に努めてまいりたいと思っております。

次に、子ども医療費の助成拡大についてであります。通院・調剤もゼロ歳から中学3年生まで拡充していただきたい、こういう御質問でございますけれども、本市では、県の助成基準に準じ、ゼロ歳から小学3年生までは通院、入院及び調剤、小学4年生から中学3年生までは入院のみを対象として実施しております。市独自として通院及び調剤について、小学4年生から中学3年生まで拡大した場合、対象者は約3500人で、その経費が約1億円余りと試算しております。子育て支援策として子ども医療費助成の重要性は理解しておりますが、市の財政状況と多種多様な行政ニーズを踏まえ、県の助成基準に沿って実施してまいりたいと考えています。

次に、子育て支援についての中で、病児保育について、病後児保育室バンビーは病児保育を取り入れ拡充する考えはあるか、こういう質問ですけれども、本市の育児と仕事の両立支援につきましては、茂原市乳幼児健康支援一時預かり事業として、病気の回復期にあり安静が必要な児童を、家庭における育児が困難な場合、一時的にお預かりし、保護者の子育てと就労の両立を支援しております。御質問の病後児保育室バンビーにつきましては、医療機関に併設され、看護師、保育士がいる専用保育施設で、生後6か月の乳幼児から小学校3年生以下で病気の回復期にあるため集団生活が難しい児童を対象にお預かりをしています。

なお、緊急で家庭において保育ができない病児につきましても、施設の判断により受け入れをしておりますので、今後は、保護者が利用しやすいように施設と連携を図りながら病児・病後児保育の周知に努めてまいりたいと考えております。

次に、育児と仕事の両立支援ということで、初心者マークのような、誰が見てもわかるようなマタニティステッカーの配布の検討をということなのですが、市では、妊婦に対して理解ある地域環境づくりを推進するため、平成20年度より母子手帳交付時にマタニティキーホルダーを配布し、希望する妊婦に内閣府認証のマタニティステッカーを配布しておりましたが、妊婦の交通安全を一層推進するため、本年5月より、母子手帳交付時に妊婦全員にマタニティステッカーを配布することとしたところであります。今後も、マタニティステッカーの活用や市民周知に努め、妊婦の交通安全を期してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

（市民部長 森川浩一君登壇）

○市民部長（森川浩一君） 市民部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

初めに、地域医療の中のがん対策についてでございます。がんにならないためには予防が大

切だが、予防のための生活習慣の改善指導はどのように取り組まれているのかとの御質問でございます。がん予防につきましては、生活改善を目的とした一次の予防対策が重要であります。若いうちからがん予防のための意識と生活習慣を身につけられるよう、さまざまな機会を通じて予防に関する情報を発信しているところでございます。具体的には、各種健康診査会場におきまして、待ち時間を活用したDVDの視聴や、広報「もばら」を活用し、がん検診のPRとがん予防のための生活習慣の改善について周知・啓蒙に努めております。また、地域におきましては、地区組織を活用しての健康教室や出前講座、高齢者に対しましては、いきいきサロン、長寿会等の健康教育などを通じて、国が示していますがんを防ぐための12カ条などを具体的に説明し、生活習慣の改善のための支援を行っております。今後も、国、県と連携を図りながら、本年3月に施行されました千葉県がん対策推進条例の中で市町村の役割とされている地域の実情に応じたがん対策の推進に努めてまいります。

次に、検診でがんが早く見つければ治る可能性が高くなる、現状の検診の受診率の向上に向けた取り組みはどの御質問でございます。平成24年度のがん検診の受診率は、肺がんで17%、胃がんが11.5%、大腸がんが18.9%、子宮がんが27.2%、乳がんが33.5%でございます。受診率向上の取り組みといたしましては、自治会を通じての検診日程と受診勧奨用チラシの毎戸配布、出前講座での検診のPRや広報によりますがんの特集など、健康に対する意識啓発や検診の受診勧奨に取り組んでおります。また、平成21年度以降は、受診率の向上及び疾病の早期発見につなげるため、子宮がん、乳がん、大腸がん検診につきましては、一定の年齢の方を対象に無料で検診を受診できますクーポン券を発行しております。さらには、平成24年度からは市のイベント等に健康相談コーナーを出展いたしまして、健康相談や各種検診のPRを行っているところでございます。今後も引き続き、がん検診に関します意識啓発及び受診勧奨を実施いたしまして、あわせて市民の皆様が検診を受診しやすいような環境整備に努めまして、受診率の向上に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

（都市建設部長 鳩川文夫君登壇）

○都市建設部長（鳩川文夫君） 都市建設部所管にかかわります御質問に御答弁を申し上げます。

住宅行政のうち、市営住宅について、住民の方より、住宅の傷みが激しく生活に不便をきたしているのを修理をしてほしいという話を多く聞いているが、市営住宅の現状をどのように把握しているのか、また、将来計画をどのように考えているのかとの御質問でございます。市営

住宅につきましては、11団地759戸を有しており、その多くの建物の老朽化が進んでいることから、修繕に対する要望が年々増加している状況でございます。本市といたしましては、団地ごと、または棟ごとの計画的な修繕が必要と考えておりますが、財政状況が厳しいことから、当面の対策といたしまして、修繕の要望があった場合には、その都度、個別に調査した上で迅速な対応が図れるよう努めておるところでございます。

なお、将来計画といたしましては、今年度、市営住宅長寿命化計画を策定する中で、予防保全的な修繕による維持管理を行うとともに、老朽化の激しい住宅につきましては、入居者の理解を得た上で集約化についても実施してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありませんか。小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 御答弁ありがとうございました。それでは、再質問をさせていただきます。

救急医療の充実について。答弁にあります救急コーディネート事業により、その疾患に対しては長時間待たされることはないのかお尋ねいたします。そのほか、全ての疾患についても拡大していただきたいと考えますが、御見解を伺います。

次に、がん対策について。1点目は、地区組織を活用して健康教室など改善支援を行っているとの答弁でありましたが、具体的にどのようにされているのか。例えば、1年間にどのくらいの方々に話をして改善指導ができているのかお伺いします。

2点目に、地域の実情に応じたがん対策の推進とありましたが、現実に検診率は上がっていません。今後、具体的にどのように推進されるのかお伺いします。

次に、子ども医療費の助成拡大について。茂原市と同じ人口の通院医療費の助成を調べたところ、9万人都市の印西市、8万8000人都市の四街道市、8万7000人都市の君津市も助成対象者は中学3年生までとなっております。また、近隣のいすみ市では、高校3年生までとなっております。外房の中核である茂原市は、厳しい財政状況と思われませんが、子育てについても外房の中核都市と名実共に誇れるよう、中学3年生までの医療費助成の拡大を計画すべきと思いますが、お伺いします。経費だけの問題でしたら、例えば定期接種化に対する国の補助金が9割となったことにより、約1億円が助かる計算となります。3月議会の加賀田議員の質問の中に、1億円を予防接種に使えないかという質問があったと思います。それができないのであれば、その1億円を使って子ども医療費分に充ててもいいのではないかと考えますが、お尋ねいたします。

次に、育児と仕事の両立支援について。1点目は、病後児保育の年間利用者数は159名とな

っていて、1日4人を越えたことはないと聞いておりますが、私の知り合いの方は、本市に病後児保育があることを知らなくて、白子町の病児保育へ行ったと聞きました。周知に努めてまいりたいと答弁にありましたが、具体的にどのように周知されるのかお伺いします。

2点目に、5月から母子手帳交付時にマタニティステッカーを全員に配布するとの答弁でしたが、母子手帳を交付されている方全員に配布していただきたいと思いますが、お伺いします。

次に、市営住宅について。1点目は、市営住宅の申し込みは年間どのくらいあって、何人入居できているか、足りているのかどうかお伺いします。

2点目に、答弁では、長寿命化計画の中で予防保全的な修繕、維持管理とありましたが、建て替えも含めた将来計画をつくる必要があるのではないかと思います。御答弁よろしく願いいたします。

以上で再質問を終わります。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの再質問に対し当局の答弁を求めます。

市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） それでは、市民部所管にかかわります再質問に御答弁申し上げます。

初めに、救急医療の充実でございます。救急コーディネート事業によりまして、その疾患に対しては長時間待たされることはないのかというような御質問と、また、全ての疾患についても拡大していただきたいという御質問でございますが、救急コーディネート事業につきましては、先ほど市長が答弁しましたように、脳血管、循環器、重度外傷の3疾患について、より迅速な救急搬送が可能となるというふうに御理解をしていただきたいと思っております。今までよりスムーズな搬送が可能になるということでございます。

また、全ての疾患についても拡大をとのことでございますけれども、本地域につきましては、産科・小児救急につきましては非常に喫緊の課題であるというふうに認識しておりますので、これらの拡大につきましても、最優先事項として県に強く申し入れをしているところでございます。引き続き県に働きかけまして、救急コーディネート事業の一層の拡充に努めてまいればというふうに考えております。

次に、がん対策につきまして、地域組織を活用して健康教室など改善支援を行っているが、1年間にどのくらいの方々に改善指導ができたのかという御質問でございますが、平成24年度の健康教室等への参加者は、健康づくり料理教室で114人、地区健康教室では939人、高齢者を対象といたしましたいきいきサロンや長寿会、出前講座等で1051人、合計いたしまして2100人

余の方々にがん予防を含めました健康づくりのための知識や技術の普及啓発に努めております。以上のことから、健康意識の向上や生活習慣の改善の一助になったのではないかというふうに評価はしております。

2点目の地域の実情に応じたがん対策の推進ということですが、その具体的な推進方策ということでございますけれども、地域間には人口構成、医療資源、財政規模等に差異がございます。特徴も異なりますことから、それぞれの地域の実情に合わせてがん対策を実施するということとされております。本市の地域の実情に応じた取り組みといたしましては、先ほど申し上げましたように、自治会を通じました受診勧奨用のチラシの毎戸配布をしております。また、市のイベントに健康コーナーを出展しての検診のPR、また、広報によりますがんの特集など、健康意識の啓発や受診勧奨を行いまして実施している状況でございます。また、検診の実施につきましては、地域別の集団検診や受診者に配慮いたしました土曜日の実施など、鋭意努力して実施しておるわけでございますけれども、受診率はおおむね全国平均で比べますと上回っております。しかし、県の平均は若干下回っているという状況でございますので、今後、さらに創意工夫を重ねながら、自分の健康は自分で守るという市民意識の向上と受診環境の整備を図りまして、受診率の向上に努めてまいればというふうに考えております。

次に、子ども医療費の助成拡大の質問でございますけれども、他市と比べて劣っているのではないかということで、実際にそのとおりでございますけれども、茂原市の実情といたしましては、加賀田議員の御質問の中で、予防接種が定期接種化になり、その財源で子ども医療費の助成を拡大できないかという御質問等が確かにございました。国は、平成25年度から定期接種の費用全体に係る財政措置として、公費負担の範囲を2割から9割に見直して普通交付税措置するというふうに伺っております。しかし、今回の財政措置におきましても、交付税の詳細がつかめておりません。市町村への影響額も不透明というような状況でございますので、現状のところ、当市の子ども医療費の助成事業につきましては、財政状況と多種多様な行政ニーズを踏まえまして、当面の間は県の基準に沿って実施していくというふうな考えでございます。

最後に、子育て支援の中のマタニティステッカーの配布の御質問でございますけれども、マタニティステッカーにつきましては、以前より母子事業開催時に妊婦に御案内をしておりました。中には希望されない妊婦の方もいらっしゃいましたけれども、この5月からは、母子手帳の交付者につきましては、全員に配布している。御質問の、それ以前の方にも配布できないかということでございますので、広報等で周知をしまして、健康管理課の窓口で希望者につきましては即時配布できるような形をしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいた

します。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 福祉部所管にかかわります再質問に御答弁を申し上げます。

子育て支援につきまして、病後児保育室バンビーの関係で、病児保育の周知について具体的にどのように取り組んでいるのかとの御質問でございますが、この周知につきましては、現在、市のホームページに掲載しておりますほか、窓口配布用の小冊子「もばらで子育てハンドブック」というものに掲載をいたしまして、子育て支援課はもとより、市の保健センター、また図書館などで配布をいたしております。また、広報「もばら」におきましても、現在周知を行っておるところでございます。今後につきましては、これまでの周知方法に加えましてリーフレットを作成いたしまして、市の保育施設、幼稚園はもとより、公共施設ですとか診療科目に小児科を掲げております医療機関にも配布するなど、さらなる周知に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 住宅行政についての再質問にお答えいたします。市営住宅の申し込みは年間どれくらいあって何人入居できているのか、また、足りているのかとの御質問でございますが、市営住宅の申し込みにつきましては、平成24年度は募集戸数14戸に対しまして29名の応募がありました。そのうち10戸が入居となっております。入居のなかった4戸につきましては、応募がなかったところでございます。

なお、近年の募集に対する応募者数の平均倍率を見ますと、平成22年度が5.1倍、平成23年度が2.7倍、平成24年度が2.1倍と倍率は徐々に減少しておるところでございます。また、募集に対しまして応募のない住宅もあることや、今後も人口減少の傾向が続くものと見込まれていることなどから、市営住宅は需要に対しましておおむね充足状況にあるものと考えております。

次に、建て替えも含めた将来計画をつくる必要があるのではとの御質問でございますが、今年度策定予定の長寿命化計画におきまして、国が定めた公営住宅と長寿命化計画策定指針では、修繕、維持管理に加えまして、建て替えや取り壊しも含めて検討することとなっておりますので、本計画の中でそれらの方向性についても示してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 小久保ともこ議員の一般質問は規定の回数に達しました。

さらに質問ありませんか。小久保ともこ議員。

○2番（小久保ともこ君） 御答弁ありがとうございました。

がん対策についてですが、がん対策推進計画では、検診受診率目標値50%、胃、肺、大腸は当面40%としていますが、茂原市においても特に胃、肺、大腸の受診率が低い状況と伺い、受診時の負担が軽減され、受診率向上につながる胃がんになりやすいかどうかを調べる血液検査、胃がんリスク検査の導入を提案いたします。これは胃粘膜の萎縮程度がわかるペプシノーゲン胃検査と、胃がんの原因と言われるピロリ菌の有無を調べるピロリ菌抗体検査を合わせたもので、判定は4つに分類されます。リスク判定により、1つには、健康な人は精密検査を受けなくて済み、身体的、経済的負担の軽減となります。2つには、がんになる危険因子を早期に見つけ、除菌などでがんを予防でき、将来の医療費を削減できます。3つには、リスク群を絞り込むことで精密検査を効率化し、がんの早期発見につながるなどの利点が上げられます。今年度導入された市は、千葉県市川市、静岡県藤枝市などがあります。ぜひ茂原市も導入を検討していただき、検診率を上げていただきたいと思います。御答弁をお願いいたします。

最後に、市営住宅ですが、本年4月24日、国土交通省後援、公民連携による地域の住環境整備講演会に参加し、自治体負担ゼロの定住促進住宅整備、神奈川県山北町の事例を伺いました。PFIなど民間能力を活用して住宅整備を図っている自治体もあるようですが、茂原市としては、民間の能力を活用して住宅整備する考えはないかお伺いします。

以上で私の質問を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの再々質問に対し、当局の答弁を求めます。

市民部長 森川浩一君。

○市民部長（森川浩一君） 胃がん検診のリスク検査の御提言ありがとうございます。胃がんのリスク検査は、御提言のように、ピロリ菌の有無と胃粘膜の萎縮度の度合いを判定いたしまして、胃がんの発症の危険度を判定するものでございます。現在、国のがん検診の目的は、がんを早期に発見し治療に結びつけていくことにございます。残念なことに、国の胃がん検診のガイドラインでは、胃がんのリスク検査は現在のところ対象になっていないというような状況でございますので、市としては、現在の国のガイドラインに基づいて実施している状況でございますので、今後、国の動向を注視してまいればというふうにございますので、よろしくお願いたします。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 市営住宅についての御質問にお答え申し上げます。民間能力を活用した住宅整備に対する考えといたしましては、先進の自治体の事例等も参考にさせてい

ただきながら、導入の可能性について今後調査研究してまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 以上で小久保ともこ議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午前11時55分 休憩

☆ ☆

午後 1 時00分 開議

○議長（腰川日出夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、山田きよし議員の一般質問を許します。山田きよし議員。

（12番 山田きよし君登壇）

○12番（山田きよし君） 皆様、こんにちは。緑風会の山田きよしでございます。過日の選挙で多くの市民の信任を得て再び市政に参画させていただくことができました。前期同様、皆様の御指導を賜り、微力ですが、市民の負託に応えていく所存でございます。まだ2期目で、大変緊張しておりますので、的を射ない質問になりますが、お許しいただきまして、当局の明解な御答弁をよろしくお願いを申し上げます。

それでは、通告に従いまして、身近な諸問題について質問をさせていただきます。

南海トラフは100年から150年の間隔でマグニチュード8前後の地震が繰り返し起きていたが、巨大地震対策の検討を進めた国の有識者は、5月28日、現状では予知は困難と認め、もし南海トラフ沿いにマグニチュード9.1の巨大地震が起きた場合は、30都道府県734市町村に被害、最悪死者は32万人、建物全壊239万棟、経済損失額220兆円、避難者は何と950万人出ると予測、避難者全員を受け入れることができない想定で、避難者トリアージ方法と広域避難の検討と、備えの重要性を指摘する最終報告書をまとめ、「地域で自活する備え」で、食料、飲料水などの家庭用備蓄を3日分から1週間分以上に増やすことや、巨大津波の対応も求めています。これを受けた古屋防災大臣は、まず自助が大原則、その上で共助、そして公助と強調し、閣僚らと防災対策実行会議を立ち上げて、対策大綱づくりに向けた議論を始めると報じております。

まず1点目、飲料水兼用耐震性貯水槽設置についてでございます。4月22日には、バングラデシュで死者1000人を超すビルの倒壊事故で、瓦れきの下から16日ぶりに若い女性が救助され、女性は周囲にあったボトルの水とビスケットで16日間の長い間、飢えをしのぎ、生き抜いたと報道されております。この報道に兵庫県災害医療センター顧問の鶴飼氏は、災害発生から3日、72時間を過ぎると急激に生存率は下がると言われるが、それは食料、飲料水がない場合で、食

料と水があれば生存率は高まるとコメントをしています。いかに飲料水が大切かおわかりかと思えます。以前にも質問いたしましたが、飲料水兼用耐震性貯水槽は、市内に11カ所設置されており、地区によっては二、三カ所設置されているところもあるようですが、3080世帯、7550人余が居住しております豊田地区は、豊田小学校と豊田福祉センターの2カ所とも二次避難所の指定にもかかわらず、いまだ1カ所も設置されておられません。その後の進捗状況をお示しく下さい。

次に、消防機庫建て替えについて。消防機庫は郡市内に108棟ありまして、本市には37カ所を拠点として、消防団員は生業を持ちながら郷土愛に燃えて、日々の訓練で自己研鑽を重ねております。長尾地先の第2支団第2分団第1部の機庫は、108棟の中で4番目に古く、耐用年数も19年も過ぎており、さらに前面市道1級14号線の幅員も狭く、その上、急カーブで、私が団員でお世話になりました32年間の間に団員の関係する交通事故が3回発生いたしました。幸いなことに、団員は大事に至りませんでした。圏央道が4月27日に開通して、交通量は一層増え、団員はさらに危険と背中合わせの中、大災害発生ときは地域の復旧・復興の拠点となる機庫を早めに安全な場所に移転をお願いしますと過去2回質問しましたが、前面市道改良計画に伴い、ゆたか区画整理内に移転すると伺っておりますが、道路改良計画とあわせ、その後の移転の進捗状況もお伺いしたいと思います。

次に、災害時にボランティアセンターが設置される総合市民センターの耐震性とボランティアセンター設置運営マニュアルについてお尋ねをいたします。

まず1点目、総合市民センターの耐震性について、総合市民センターは、大災害発生時に被災者受け入れの二次避難所と各地から復旧・復興の支援に駆けつける災害ボランティアの方を被災された要援護者のところへ派遣する拠点になるわけですが、昭和56年5月の耐震基準法改正以前の昭和54年11月に総合市民センターが完成しており、耐震構造の欠如で建物が耐えられるか、二次災害防止のため、災害発生直後には応急危険度判定士の診断結果では、使用はできません。そのため、総合市民センターの耐震設計と耐震工事の進捗状況もお示しいただきたいと思えます。

それから、同じセンターの運営マニュアルにつきまして、大災害発生直後、災害ボランティアセンターは茂原市災害対策本部と茂原市社会福祉協議会会長が協議をし、ボランティアセンターを社協が総合市民センター内に設置し、千葉県災害対策コーディネーター茂原と運営すると思えますが、他の設置方法にも県の社協からの要請と茂原市の社協独自の判断の設置も考えられます。いずれにしても、大災害発生時の災害ボランティアセンターの設置・運営のマニ

ュアルの作成状況もお伺いをいたします。

次に、二次避難所開設・運営について。本市において82カ所の避難所のうち34カ所を二次避難所に指定し、その避難所に各2名の直近動員を配置、実質64名と伺っておりますが、過去、大災害での二次避難所の開設事例についてお伺いします。また、開設時の直近動員の役割はどのようなになっていたかもお伺いをいたします。

続きまして、児童（たから）の集団通学登下校路の安全対策につきまして、第1点、JR外房線川代踏切拡張についてでございます。田中市長の諸般の報告で、学校施設の耐震化を昨年度の補正で小学校体育館5棟の工事費を計上して、今年度中の完成に向けて着手とのことで、他の24棟の耐震設計終了後も順次予算を上程し、平成27年度末までに完成を目指すとのことで、田中市長の児童（たから）に対する熱い思いに敬服をいたします。児童の集団登校最後尾から無免許の少年が居眠り運転で10人が死傷した京都府亀岡市、そしてその4日後に館山市でバスを待っていた児童の集団に二十歳の男性が車で突っ込み、1人が死亡。両方の事故とも、新聞によりますと、以前から危険な通学路と指摘されておりました。亀岡市では若いお母さんも、安全・安心の集団登下校の見守り隊で犠牲になりました。あの大変悲惨な交通事故から1年余が過ぎました。

ここで伺いいたします。先ほど亀岡市、館山市とも以前から危険な通学路と指摘があったとお話ししましたが、豊田地区自治会長連合会からも、豊田地区内の環境整備事業推進項目の一つで、児童（たから）の危険な通学路として新茂原駅北側の川代踏切の拡幅をお願いしております。以前にも質問しましたが、豊田小学校の児童（たから）の集団登校見守り隊として毎日一緒に渡っている川代踏切の幅員が狭いため、過去に、きょうみたいな雨天の場合、対向車と児童の傘が接触したこともあり、大変危険な踏切です。先ほども申し上げましたように、市長の児童に対する熱い思いの中で、踏切拡幅計画の進捗状況をお伺いしたいと思います。

続きまして、市道3級5071号線拡幅と大橋の架け替えについて質問をさせていただきます。まず、市道3級5071号線拡幅について、こちらも危険な通学路のため、学童（たから）が安心して通学できるようにと豊田地区自治会長連合会より、昨年9月に通学路の安全確保で拡幅をお願いしてあります市道3級5071号線のわずか120メートルです。この区間は舗装部分でも路肩が崩れて、狭いところは幅員2.7メートルで、軽自動車もすれ違えないために、対向車は幅広いところで待機し、通学する児童（たから）は対向車が通りすぎるのを未舗装部分の路肩の草むらで待機し、先ほども言いました、きょうのような雨天の場合は、草むらが滑りやすく転倒する恐れがあります。大変危険な通学路の拡幅工事が早期に必要と考えますが、

御見解をお聞かせください。

次に、大橋の架け替えについて、市道3級5071号線の東側の阿久川にかかる大橋は、道路幅員と同じ幅で狭く、欄干もわずか45センチと低く、過去に橋から転落死亡事故が発生しましたが、事故発生直後に当局の計らいで仮設の手すりは設置されました。地元からの長期に渡る強い要望が実り、平成24年度には詳細な設計が実施され、二級河川阿久川改修工事もようやく進みつつありますが、その河川改修工事にあわせて道路の拡幅と大橋の架け替えは可能かお伺いをいたします。

以上で私の第1回目の質問を終了させていただきます。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの山田きよし議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 山田きよし議員の一般質問にお答えさせていただきます。

災害・減災に強いまちづくりについての中で、飲料水兼用耐震性貯水槽設置についてということなのですが、過去にも何度か質問したけれども、その後の進捗状況ということですが。豊田小学校への飲料水兼用耐震性貯水槽の設置につきましては、豊田小学校前の県道茂原環状線に敷設されている水道管の口径が500ミリと大きいため施設の設置が困難でありましたが、周辺地区の水道管ルートの見直しによる管径変更を行えば、技術的には可能であることがわかりました。しかしながら、この手法は非常に多額の財政負担が生じることとなりますので、引き続き検討するとともに、他の方法についても検討してまいりたいと思っております。

次に、消防機庫建て替えについてであります。消防機庫は長生郡市内に108棟あり、茂原市内は37棟であるが、長尾地先の消防機庫は郡市内でも4番目に古く、前面道路の拡幅に伴いゆたか土地地区画整理地内に移転するというのですが、道路改良計画とあわせてその後の進捗状況という質問です。市道1級14号線長尾地先の道路改良工事につきましては、平成23年度より事業を再開しましたが、用地価格などでの合意が得られず、交渉が難航しているのが現状でございます。このような状況ではございますが、橘神社用地につきましては、責任役員との協議を重ね、了解がおおむね得られたことから、現在契約に向けた事務を進めているところでございます。

なお、消防機庫につきましては、神社敷地内に消防機庫を移転する用地の確保が難しいことから、地元消防団及び長生郡市広域市町村圏組合消防本部と移転先について協議を行ってまいりました。その結果、当該消防団担当地区の中心近くに位置するゆたか土地地区画整理組合事業

地内へ移転することで合意したところでございます。

なお、機庫の移転につきましては、6月から現地調査及び設計を行い、10月から建設に着手し、年度内に完了する予定となっております。

次に、災害・減災に強いまちづくりの中で、災害ボランティアセンター設置の総合市民センターの耐震性とボランティアセンター設置・運営マニュアルについてという質問でございます。総合市民センターの耐震診断につきましては、昨年5月から12月にかけて実施いたしました。その結果、耐震診断の安全基準となるI s値0.6を下回るI s値0.54との診断結果が出ております。進捗状況としましては、本年4月から耐震補強工事設計を実施しており、その設計については、平成26年1月末に完了予定となっております。

次に、児童の集団通学登下校路の安全対策についてでございます。市道3級5071号線は通学路に指定されているが、幅員が狭く危険である、早期の拡幅工事が必要と考えるがということと、阿久川にかかる大橋は幅員が狭く過去に転落死亡事故が発生している、河川改修事業にあわせ道路の計画幅員での架け替えが可能か、この2点についてお答えします。市道3級5071号線につきましては、豊田小学校の通学路であることから、子供たちの安全確保の観点から、拡幅工事的必要性は認識しているところでございます。しかしながら、本路線につきましては、大橋の架け替え工事と一体での整備が有効でありますので、阿久川河川改修事業との整合を図りながら整備に向けた検討をしてまいりたいと考えております。

次に、大橋の架け替えについてですが、県による阿久川改修事業の地元説明会が本年3月に開催され、第1期整備計画では、本工事は含まれていないとの説明がなされました。しかしながら、現在の橋台は河川内に張り出しており、流下能力を阻害するものと考えられますので、河川改修断面にあわせた橋梁の架け替えを計画に取り入れるよう県に強く要望してまいります。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 福祉部長 岡澤弘道君。

（福祉部長 岡澤弘道君登壇）

○福祉部長（岡澤弘道君） 福祉部所管にかかわります御質問にお答えを申し上げます。

災害・減災に強いまちづくりについて、総合市民センターは大災害発生時に災害ボランティアセンターを設置するということになっているが、運営マニュアルの整備状況についてという御質問でございます。災害ボランティアセンターの設置につきましては、災害対策本部と茂原市社会福祉協議会が協議、調整を図った上で、所管となる社会福祉協議会が設置することになっております。また、運営マニュアルにつきましては、現在、茂原市社会福祉協議会で素案を

策定中でございますが、この策定にあたっては、既に千葉県社会福祉協議会より示されております災害時における支援活動マニュアル及び現在総務課防災対策室を中心に、本年9月末を目途として改訂作業を行っております茂原市地域防災計画等との整合を図りながら整備をしてみたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管にかかわります二次避難所の開設事例と直近動員の役割の御質問に御答弁を申し上げます。初めに、過去の災害時の二次避難所の開設事例につきましては、この10年で見ますと、平成23年3月の東日本大震災の際に3カ所、平成19年の台風で3カ所、平成18年の大雨で1カ所、平成16年の台風では、当時の全ての二次避難所33カ所を開設しております。

次に、直近動員の役割につきましては、直近動員は担当施設におきまして、まず施設の安全性を確認した上で避難所を開設し、避難者を受け入れ、避難者の情報や健康状態の把握、必要に応じた備蓄品の配布などを行い、本部との連絡を密にとりながら避難者を保護してまいります。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 企画財政部長 三浦幸二君。

（企画財政部長 三浦幸二君登壇）

○企画財政部長（三浦幸二君） 企画財政部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

児童（たから）の集団通学登下校路の安全対策についてのJR外房線川代踏切拡幅についてのその後の進捗状況の御質問ですが、踏切の拡幅工事をはじめ、JR東日本への要望につきましては、千葉県及び関係市町村によって組織される千葉県JR複線化等促進期成同盟を通じて毎年要望活動を行っております。御質問の川代踏切の拡幅工事につきましても、平成21年度より要望しており、昨年度は8月8日にJR東日本本社へ、9月3日には千葉支社へそれぞれ要望をいたしたところでございます。JR東日本といたしましては、各市町村からの要望が非常に多い中、危険性や利用者の利便性を考慮し、実施の判断をしているところでございます。本踏切の拡幅は歩行者の安全対策にとって重要であることから、本年も引き続きJR東日本へ要望してまいります。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 1回目の御答弁ありがとうございました。それでは、引き続き質問させていただきますので、御答弁をよろしく願いいたします。

まず、貯水槽につきまして、前回とほぼ同じような回答だったんですけども、少し違うと思われるのは、他の方法についても検討することですが、その他の方法というのはどのような方法かをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 当局の答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） ただいまの御質問に御答弁申し上げます。

市では、先月、長生郡市管工事協同組合と、非常時において水源である配水池や浄水場から飲料水を運搬することを含めた応急給水対策に関する協定を締結いたしましたので、豊田小学校へ飲料水専用タンクを用意することを現在検討しているところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 南三陸町で被災者から直接聞いた事例ですけども、震災直後の飲料水の確保は、津波で流されてきたポリ缶を使い、若い男性が輪番で往復約5時間近くリヤカーを引いて、毎日、沢の水汲みを半月も続けたそうです。大変な苦勞をしてくんできた貴重な水ですから、食事等に使う容器には直接食料を入れなくて、ラップを敷いて、容器は水で洗わずに、ラップを捨てるというようなお話を伺いました。そのような大切な水を、当時、自宅避難者が水の入ったポリ容器を持ち去るのが毎日のように続いたそうです。先ほどの御答弁では、管工事組合と飲料水を輸送する応急給水対策の協定を締結とのことですが、大災害時に給水車が平常時のように被災地を走れるのか、大変危惧されます。したがって、その飲料水専用タンクの設置が決まりましたら、その容量、容積を教えてくださいたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 現在、決定はしておりませんが、500リットルを2基程度と今考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） わかりました。よろしく申し上げます。

次に、消防機庫についてでございますが、先ほどの御答弁で大変よくわかりました。私が支団長のときに団員に言われたのが、「支団長、こんな古くて小屋みたいな機庫を見れば、若い人の入団は無理ですよ。嫁、婿に来いと言われても誰も来ないですよ」と。しかし、ゆたか土地区画内に6月から現地調査を開始し、そして10月に工事に着手ということで、年度内に完成ということで、真新しく変わる機庫に団員も笑顔と歓喜に変わり、今後は若い新入団員も増えて、大災害発生の際は地域の復興・復旧の拠点となるよう、平時から減災に対するスキルアッ

プを一層高めていただくよう心より願う一人でございます。もしこちらの工事工程表ができましたら、一部届けていただきたいと思います。こちらは要望でございます。

次に、総合市民センターの耐震性につきまして、総合市民センターの耐震診断結果が、安全基準を下回る結果が出て、耐震補強工事設計を本年度4月から実施、来年の1月末に設計完了とのことですが、耐震診断の結果を待たずに先に施工をしましたトイレ工事について、耐震診断の結果、トイレ回りの躯体に補強が生じるなど再度の手直しの必要が生じる可能性はありますか。お伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 山田議員の再質問に御答弁を申し上げます。

今後の耐震補強工事实施の際にトイレ回りの補強が生じるなど再度手直しの必要が生じないかという御質問でございますが、昨年の耐震診断時に委託業者のほうから提示のありました耐震補強設計案では、トイレ回りの耐震補強は生じておりません。また、現在委託しております耐震補強工事設計の中で、補強位置に変更があった場合でも、工法等の工夫によりまして、トイレ回りに補強が生じないよう計画を進めてまいります。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） わかりました。トイレ回りの耐震補強工事は生じないとのことですから、ボランティアセンターが耐震構造に問題なく開設できるよう、早めの工事の竣工もお願いしたいと思います。要望です。

続きまして、運営マニュアルにつきましてですけれども、災害ボランティアセンター設置は理解をいたしました。運営マニュアル完成後に千葉県災害対策コーディネーター茂原はどのような運営にかかわるのか、素案策定中とのことですが、お答えできる範囲内でお示しをいただきたいと思っております。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） お答え申し上げます。

運営マニュアルの完成後に千葉県災害対策コーディネーター茂原がどのように運営にかかわっていくのかという御質問でございますが、災害ボランティアセンターの運営につきましては、現在、千葉県社会福祉協議会及び県内の社会福祉協議会と協定が結ばれております。この協定に基づきまして、地区社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、災害対策コーディネーター等と連携することを内容に盛り込み、現在策定作業を進めていると承知しているところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 現在作業中ということでございますので、一日も早いマニュアル完成で、センター運営につきましては、千葉県災害対策コーディネーター茂原と関係機関は互いに連携を図り、有事の際には被災者のニーズに応え、ボランティアとマッチングし、要援護者に送り出しが円滑にできるようなマニュアルを早期にお願いをしたいということで、要望でございます。

次に、二次避難所開設・運営につきましてです。過去の開設事例をお伺いしますと、風水害が大半のようで、東日本大震災は帰宅困難者で開設したのかなと思われませんが、いずれにしても、短期間の開設ということがわかりましたが、二次避難所の開設・運営マニュアルはどのようになっているか、お伺いをしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 二次避難所の運営マニュアルでございますけれども、茂原市防災マニュアルにおきまして、直近動員による二次避難所での開設・運営などの活動内容をわかりやすく示しておるところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 茂原市防災マニュアルでわかりやすく、直近動員に示しているという御答弁をいただきましたが、34カ所の二次避難所は被災者受け入れの条件が個々に異なります。したがって、各避難所に適合したマニュアルが必要なので、後の質問にも関連がありますので、そこで詳しくお聞きしたいと思います。とりあえずは、直近動員に、茂原市防災マニュアルに基づいて各避難所に適合するようわかりやすく説明を今後もお願いたしますとともに、できましたら、直近動員に配布した防災マニュアル書を一部いただきたいと思っております。要望です。

次に、過去、直近動員に二次避難所開設・運営の講習会を行っているのかお伺いします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 直近動員に対します二次避難所の開設・運営を含めた説明会でございますが、これは毎年実施しておりまして、今年度におきましても5月に実施いたしました。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 私は、講習会ということでお伺いいたしましたが、説明会を毎年実施されているということで、本年は5月にとのことですが、年々災害も大規模になり、また、

避難所の受け入れも多様化しつつありますので、今後は説明の内容も見直していただきたいと思いますというふうに思っています。要望です。

また、今後、直近動員の二次避難所開設・運営の講習会を行う予定はありますか。再度、お伺いをいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 先ほど説明会というふうに申し上げたところでございます。例えば実地を伴うような、そういう講習会を行う予定は現在のところ持っておりません。ですが、該当職員の理解度など、必要に応じて検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 現在のところはないが、直近動員と該当職員に必要なに応じてということですので、次に移りたいと思います。

避難所開設・運営につきまして、最後になります。二次避難所指定区域内の住民で開設・運営ができるような組織づくりと訓練が急務と考えております。当局の御見解をお伺いいたします。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 避難所の運営につきましては、避難者の少ない小規模な災害におきましては直近動員が運営をしてまいりますが、東日本大震災のような大規模災害時においては、多くの避難者が発生し、また、長期避難となることが予想されます。このような場合は、行政だけでは当然限界がございますので、地域の皆様が中心となって避難所運営をしていただくことが求められております。このようなことから、自主防災組織を対象といたしましたリーダー研修などを通じまして防災意識の高揚に努め、必要意識の醸成を図りながら、組織体制づくりについて支援をしてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 『釜石の奇跡』の群馬大の片田教授は、日ごろから地域、職場、学校での組織的な訓練の積み重ねが大切と講演の中でお話をしておりました。小規模災害では短期間の避難所の開設・運営は直近動員でできるかと思いますが、大規模災害の長期間の運営は行政だけの対応は無理です。大規模災害では、二次避難所区域内の住民は当然のこと、きょうの新聞によりますと、国土交通省が茂原市にスマートインターチェンジを認可と報じておりますが、その圏央道が通行止めになり、大型バスからたくさんの乗客、障害のある方や感染病の方、けがをした方、日本語を話せない方、ペット等、さまざまな条件の異なる避難者と、時間

帯によっては大勢の帰宅困難者と、先日の全員協議会の資料の二次避難計画の概念図のように、近隣の町村から8891名余の方も本市の避難所に避難すると数字で示されております。東日本大震災では、お父さん、お母さんを亡くした錯乱状態のたくさんの子供たちと、けがをしながら亡くなった我が子を抱えて避難所に着いたお母さん等、500人収容の避難所に、発生直後は700人余の避難者が駆け寄った南三陸町の事例も想定内に入れた対応ができるような、各避難所指定区域内の自治会役員と防災関係団体で開設・運営ができるような組織の確立がこれからは必要なのかなというふうに思っています。それには訓練、そして先ほど言いました直近動員と該当職員の方々も一緒に参加していただきまして、避難者トリアージ方式も取り入れた、各避難所に適合したマニュアルづくりにも着手していただきたい。南三陸町の教訓を無駄にしないといけないと、茂原市小学校区内で実施されました避難所開設訓練に私も参加をさせていただきました。できれば、茂原小学校含め、そして今後、実施するところには助成金もお願いして、組織づくりをお願いしたいというふうに思っております。

そして、先ほどの御答弁の中にありました自主防災会を対象としたリーダー研修会の開催のことですが、日程が決まりましたらお知らせください。その際は、千葉県災害対策コーディネーター茂原も微力ながらお手伝いをさせていただきたいと思っております。これは要望でございます。

次に、JR外房線川代踏切拡幅についてでございます。前回と同じような御答弁で進展がないように思われますが、その中で、昨年8月、9月にJR東日本の本社と支社に拡幅の要望をさせていただいたということですが、本年も要望に行く日にちがわかりましたら、日程をお知らせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） JRへの要望の日程でございますが、現在、千葉県JR複線化等促進期成同盟において各市町村からの要望事項を取りまとめているところであり、要望事項が決定次第、JR東日本本社及び千葉支社と日程調整し、8月ごろをめどに、本年度も川代踏切の拡幅も含めまして要望をする予定でございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 8月ごろということでございますので、できれば、日程がわかり次第、連絡いただきたいと思っております。そして、当局の皆さん御存じかと思っております。JR外房線の八積駅西側の鯉名踏切に関しましては、隣接に安心・安全の歩行者専用の踏切がございます。児童（たから）の通学路の指定にもかかわらず、拡幅が進まず、歩行者専用の踏切もなく、危

険な通学路、危ない踏切から児童（たから）を守るように、鯉名踏切のような安全・安心な踏切にするために、できれば川代踏切北側に歩行者専用の踏切を設置していただきたいというふうに思います。そして、JRに先ほど伺うということでもございました。その前に、私と一緒に、登校時間にあわせて踏切の危険な実態をぜひ視察していただきたいと思います。これは要望でございます。

次に、大橋につきましては、河川改修にあわせて手すりが高く、安心して通行のできる、阿久川の西側と同じ幅員の大橋の架け替えの早期実現に向けた要望を引き続きお願いしたいというふうに思っているところでございます。

そこで、市道3級5071号線につきましては、先ほどの御答弁は、大橋の架け替え工事と整合を図りながら進めたいとのことですが、この箇所は特に幅員が狭く、危険であります。道路整備を早めることにより、道路幅員にあわせた大橋の架け替えと河川改修の両方の工事を県は早めるのではないかと思いますので、そのためにも早期の整備をお願いしたいと思いますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 長尾地区につきましては、現在、市道1級14号線の長尾橋神社付近が特に危険な状況にありますので、この箇所の道路拡幅事業を現在実施しており、市道3級5071号線につきましては、先ほども御答弁いたしましたように、大橋の架け替え工事と整合を図りながら検討してまいりたいと思っております。しかしながら、市道3級5071号線につきましては通学路に指定されておりますので、子供たちの安全確保という観点から、暫定的ではありますが、待避所などの対応について今後検討してまいりたいと考えております。

なお、現在、県におきまして茂原環状線の長尾セブンイレブンから獅子吼橋間について歩道整備を含めた拡幅工事を実施中でございます。この工事が完成いたしますと、豊田小学校まで全て歩道を使って通学できる状況が確保されますので、教育委員会と通学路の見直しについて今後協議してまいりたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。山田きよし議員。

○12番（山田きよし君） 市道3級5071号線の阿久川東側に待避所、通学路の変更等の協議とのことですが、阿久川の西側は5.35メートルと車道部分の幅員も広くて、道路両側の歩道部分も2.8メートルと整備が整っております。児童（たから）の安全な通学路として整備も必要ですが、地域の住民の生活道路としても西側と同じような整った拡幅工事を当局に強く要望させていただきたいと思います。これは要望で結構でございます。

それから、最後になります。これで私の質問は全て終わりにさせていただきますけれども、先ほど消防機庫の移転の件で、当局の工事関係者の工事期間中の安全、そして新築工事が遅滞なく竣工できますことを御祈念申し上げますとともに、ここに至るまでの当局の御心労に対し、第2支団第2分団第1部出身の消防団員として心より感謝を申し上げまして、私の質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） 以上で山田きよし議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後 1 時 55 分 休憩

☆ ☆

午後 2 時 05 分 開議

○議長（腰川日出夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、竹本正明議員の一般質問を許します。竹本正明議員。

（22番 竹本正明君登壇）

○22番（竹本正明君） 竹本正明でございます。通告に基づきまして、行政諸般にわたる質問をさせていただきたいと思っております。

先般、厚生労働省所管の国立社会保障人口問題研究所が2040年までの地域別将来推計人口を発表しております。それによりますと、2040年には65歳以上が人口に占める高齢化率は全都道府県で30%を超えるという試算が出ております。ちなみに、千葉県においては36%を超えるだろうと言われているように、日本は世界に類を見ない超スピードで高齢化が進み、かつ少子化の現状を見れば、相対的に人口の減少が顕著になるということでもあります。現在の総人口は1億2800万人であり、2040年には1億人を割るかもしれないという推計もしております。

このような現状の中、我が茂原市を見てみますと、国の推計に合致するような曲線を示しております。以前にも一般質問で申し上げましたが、茂原市の人口は30年後、このままでいけば6万人台になってしまう、こういう推計が千葉銀行シンクタンクによって示されているところでございます。

今、茂原市の現在の年齢別人口構成状況を見てみましたとき、ゼロ歳から5歳までが3800人、6歳から14歳の小中学生、年少人口でございますが、6800人、合わせて、ゼロ歳から14歳までが人口の12%であります。また、生産年齢と言われる15歳から64歳までが5万6500人余、全体人口の62%でありまして、そしてまた65歳以上の老年人口は約2万4400人、全体人口の26%でありまして、合計9万1500人が現在の人口の構成でございます。まさに茂原市は少子高齢化の

先頭に立っていると言っても過言ではないのではないのでしょうか。

このような茂原市の現状の中、これから少子高齢化に対する政治手腕と行政能力は問われるところでございますけれども、そういう中、今まで何人かの質問で子育て支援、あるいは高齢化問題、医療問題、言われてまいりましたが、この少子高齢化にどのように取り組んでいくのか、この辺をお尋ね申し上げたいと思います。

次に、風疹ワクチンの接種補助についてであります。これにつきましては、今議会の補正予算で奇しくも補助するという議案が出ておるわけでございます。これを私が、茂原市はどう取り組むのかということの思い至った段階において、この問題を提起していこうと思ったわけでございますが、先ごろ、国立感染症研究所が、この半年に9400人くらいが罹患しているということ、そしてまた、7月中には1万人を超えるだろうという発表が昨日の新聞紙上でありました。この状況に対して、本来もっと早く手を打つべきところでありましょうが、国は予防予算の問題から、ほかにもいろいろと接種、ワクチン関係、予防関係があるので、風疹については予算を立てられないということで、各県において、地方自治体において対処してもらいたい、このような国の方針があったわけであります。千葉県は5月1日、補助を開始したということで、茂原市もこれに対して早期に取り組むべきだという思いをいたしたところでございますが、これに対して市税の浄財を投じて、このワクチンの接種に補助をしていきたいということでございました。今、少子高齢化という、先ほど申し上げました中で、子供をいかに元気に安心して育てるか、これが大事な国の方針でもありましょうし、地方自治においても大事な施策であろうと思います。もしもこのワクチン接種が行われなければ、生まれてくる子供に障害が生じるということは既に言われて久しいわけでありまして、そのために、今度は医療費とか、いろいろな問題が加重な負担になってくる。そういうことを考えたときには、これを未然に防ぐということが、この少子化対策にも大きく貢献するということではないかと思ってきたところでありまして、市もそれに取り組むということで、ほっとしたところでもあります。

風疹・麻疹につきましては、簡単にいえば、はしか、あるいは三日ばしか。昔、我々は小学校時代とかにはしかにかかったとか、そういう形で免疫抗体ができている人たちも多いわけがありますけれども、その免疫抗体がないという人たちが妊娠をしていけば、子供にそれが影響を及ぼすよということでもありますから、これにつきましては、国を挙げてこの問題に取り組むべきでありましたけれども、幸いにして、千葉県、あるいは各県においても補助をしていこうという動きが出てきたということでございます。

こういう中で、この問題につきましては、既に議案として出ておりますから、私からこれに

つきましてどうこう言うことはなくなったわけでございますけれども、ただし、380万くらいの予算でございますけれども、何名くらいを想定しているのかということ、そして風疹ワクチンについては3000円の補助、麻疹・風疹ワクチン予防接種については5000円ということで、半額補助ということになっておりますが、本来は、一番問題になっているのが麻疹・風疹でありまして、これが実際には1万円近くかかるということの金額の高さから、若い世代では予防を受けにくいんじゃないかということでありましたけれども、5000円の補助ということで、この分野においての接種が必要であろうと考えております。この辺の答弁をお願い申し上げたいと思います。

次に、市職員の登用と職員管理についてですが、国は女性の管理職の登用をもっと図れということ、各省、あるいは地方自治体にも求めているところでもあります。ましてや、先般、安倍総理は、企業に対しましても3割の女性役員の登用を図れ、こういう檄を飛ばしているところでございますけれども、男女平等、あるいは男女機会均等、あるいは男女共同参画、こういう言葉が飛び交っているわけでございますけれども、実際の今の状況というのは、なかなか女性の登用、あるいは幹部職員になる、あるいは実力を発揮するというまでいっていない、そんな気がしているわけでありまして、茂原市における女性管理職の状況はどのようになっているか、これをお尋ね申し上げたいと思います。

次に、職員管理についてでございますけれども、先般、私は読売新聞を見ましたが、新聞紙上に、茂原市職員の不祥事が発覚して市は懲戒処分にしたという報道がありました。非常に由々しきことである、残念であると思いましたが、この事例は、過去、大都市であります大阪市において同じような事例が多数報告されて、これを是正すべく橋下市長が乗り込んだという経緯もあるわけでございますけれども、こういう状態は、大都市であるという、職員が何万人かいる大阪市、茂原市においては700人から800人の職員の数からすれば、非常に綱紀の緩み、あるいは職員モラルの低下を見ざるを得ないわけでありまして、この問題につきまして管理職の管理責任とか、そういうものが問われるわけでありまして、この辺の見解及び取り組みについてお尋ねを申し上げたいと思います。

次に、これは議案には載っておりませんが、メガソーラー計画についてお尋ねをしようということで、3月議会でも、市の方針としては、石神地区の元西部地区開発事業用地にメガソーラーを推進していきたい、こういう話があったわけでございますが、具体的に進んでいるのか、こういう思いの中でこの問題を取り上げた。ところが、既にその計画を立てて、先日、市のホームページに事業者の募集要項を載せたということでありました。その内容についてお尋ねを

申し上げたいわけでございますけれども、今、メガソーラーの問題が大きく取り上げられています。政府は福島第二原発事故を受けて、国内全ての原発が休止している状況の中、電力の不足を補うために火力発電、これは大気汚染に結びつくので、できるだけ再生可能エネルギーである風力や波力、地熱、太陽光発電に力を入れていきたいということでありまして、そういう方針の中で政府も取り組んできたという現実があるわけでありまして、既に隣の長生村では、村有地をメガソーラー基地にしようということで、業者の募集が終わり、今それを精査しているというような段階で、既に取り組んでおります。茂原市においても、先般、今お話ししたように、茂原市ホームページにその募集要項を出しているということでございまして、その内容につきましてお尋ねをしたいと思います。

以上が私の質問でございます。よろしく御答弁をお願い申し上げたいと思います。終わります。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの竹本正明議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 竹本正明議員の一般質問にお答えさせていただきます。

少子高齢化社会における茂原市の取り組みについて、子供や高齢者への長期的な支援について基本的にどのように考え取り組んでいるのか、こういう質問ですが、まず子育て支援につきましては、質の高い幼児期の教育・保育の総合的な提供や病児保育等による子育て世代の就労支援など、次代を担う子供を生き育てやすい環境づくりが重要であると考えており、幼保連携型認定子ども園の推進を含めた子ども・子育て支援事業の実施に向け検討をしております。また、高齢者支援につきましては、高齢者の就労や社会参加への支援、介護予防の推進、単身高齢者や高齢者のみの世帯等への見守り体制の確立など、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域包括支援センターの市内4圏域への設置や、地域や民間の人材を活用した高齢者見守りネットワーク事業などに取り組んでいるところでございます。本市におきましては、市民ニーズをよりの確に把握するとともに、地域の実情を踏まえた上で子育て及び高齢者支援体制の充実に努めてまいりたいと考えております。

次に、市職員の登用と職員管理についてであります。市職員を処分したと聞いているが、綱紀が緩み、モラルの低下があるのではないかと、これについてどのように取り組んでいくのか、こういう質問でございますが、今回の処分は、病気休暇中の職員の行動が地方公務員としての自覚に欠ける行為であったことに対する処分であります。日ごろから綱紀の保持についてはか

なりきつく指導しているところでございますが、このような事案が発生したことは、大変今回の件は遺憾であると考えております。今後は、さらに公務員として自律の精神に基づいた倫理観を持って行動するよう指導を徹底し、市民の皆様の信頼回復に努めてまいりたいと思っております。

次に、メガソーラー計画のその後についてであります。石神の元西部地区開発事業用地にメガソーラー事業を計画しているとのことであるが、その後どのように進んでいるのか、また、どのように推進したいと考えているのか、こういう質問ですが、旧西部団地開発予定地において、メガソーラー発電にかかわる企画提案を公募型プロポーザル方式により6月6日から募集しております。提案書の提出期限は7月5日を予定しております。その後、茂原市メガソーラー設置事業者選定委員会において応募のあった事業者からの企画提案の説明を受け、審査及び評価を行い、7月下旬をめどに決定してまいりたいと考えております。そして、各種法令手続きを経て、本年12月には工事着手したいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

（市民部長 森川浩一君登壇）

○市民部長（森川浩一君） 市民部所管にかかわります御質問について御答弁申し上げます。

風疹予防ワクチン接種の補助につきまして、何名分の対応を考えているか、また、1名あたりの補助額はどのくらいかとの御質問でございます。風疹ワクチン接種の助成につきましては、風疹の流行状況を踏まえ、特に重篤な影響を及ぼす可能性のある妊婦への感染の拡大を防止する観点から、県の風疹ワクチン接種緊急補助事業を活用し、予防接種費用の一部を助成し、ワクチン接種の勧奨を図ることとしております。事業費は384万円を見込んでおりまして、本市の年間出生見込み者数の640人を基本に接種率を60%として、接種対象者であります20代から40代の方で妊娠を予定、または希望する女性及び妊婦の夫を合わせまして768人分を見込んでおります。また、1人あたりの助成額は風疹単独ワクチンの場合3000円、麻疹・風疹・混合ワクチンの場合は5000円と設定したところでございます。

なお、助成単価は県内市町村の平均単価といたしました。

以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（腰川日出夫君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管にかかわります女性職員の登用に関する御質問に御答

弁を申し上げます。平成25年4月1日現在、幼稚園、保育所を除いた係長相当職以上の職員数257名のうち女性職員は29名でございます、割合では11.28%となっております。女性職員の登用につきましては、茂原市男女共同参画計画の取り組み項目の一つに掲げて推進を図ることとしており、積極的な登用に努めておるところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） 最初の少子高齢化社会における茂原市の取り組み、今、市長から答弁がありました、基本的には、そういう形でやっていきたいんだというのは概念としてはわかるわけでありまして、しかし、今、1つ、子供のことを考えた場合、先ほども通学路の安全とかいろいろと出ておりました。そういう中で、子供をいかに安全に育てていくかという1つとして、公園等で安全に遊ばせよう、こういう保護者たちが、公園における遊具の危険性、そしてまた、危険性があると指摘されたものは撤去してしまう、その後には新たな設置はない、こういうような話もあるわけでありまして、こういうことも考えていくべき1つであろうと。確かに予算としてはお金がかかる、今お金がないんだと片付けてしまえばそれまでですが、この問題につきましてどのように考えているか、まずお尋ね申し上げたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 当局の答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 少子高齢化社会におけます茂原市の取り組みについての中で、公園遊具の管理が不十分であると、そういった中で、公園遊具の充実についてどのように考えているかとの御質問でございます。福祉部の所管します公園の遊具につきましては、児童に健全な遊びを与え、健康の増進、情操を豊かにすることを目的として設置をしているわけでございます。子供たちが楽しく安全に遊べますように遊具の定期的な点検による修繕を行いますとともに、地元自治会の協力により草刈りなどを行い、適切な維持管理に努めておるところでございます。また、近年、少子化あるいは子供の遊びの変化によりまして児童遊園を利用する児童が年々減少傾向にございます。また、地元自治会からの廃止の要望などがあるものもございます。そういったものにつきましては、廃止をしている状況でございます。また、新たな遊具の充実要望は現在出されておりませんが、設置の要望がありました場合には、地元の自治会と協議をしてみたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

○都市建設部長（鳩川文夫君） 公園遊具の管理、充実についての御質問のうち、都市公園について御答弁させていただきます。子供たちの遊びやスポーツの場として、市内に大小109カ所が設置されておりまして、スポーツ施設や遊具などにつきましては定期的に点検を実施して

おり、子供たちが楽しく安心して遊べるよう適正な維持管理に努めているところでございます。また、老朽化した遊具等につきましては、今後とも計画的な更新が図れるよう努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明君。

○22番（竹本正明君） 児童遊園につきましては、この間の議案で廃止というようなところも三、四カ所あったわけでありまして、しかし、そこばかりが公園ではなかったわけで、都市公園における遊具、こういうものが子供ともども利用されている。老朽化になって撤去する、撤去したらそのままになってしまうということが見受けられるから、これについては、今の答弁のように、順次対応していくということで了解をしたいと思います。

続けます。子供の安心・安全な問題ということの中で、横浜市では、2000人余の待機児童をゼロにしてきたという努力が、先般、新聞、ニュース報道等で報じられました。茂原市には待機児童はいない、このように思っておりますが、その一端を担っているのが、これは予算委員会かなんかで話したことがあります、無認可保育所の存在がこれを大きく寄与しているのではなかろうかという気がしておるわけでありまして、ここに対して、市とすれば、ささやかな補助はしているよということはあるようでございますけれども、民間の認可保育所並みの補助を出していくべきではないかなという思いをしているところでございますので、その辺の考えをお尋ね申し上げたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 御答弁申し上げます。

無認可保育所に対しまして私立の認可保育所並みの補助をとという御質問でございますが、市内にはみどりがおかチャイルドハウス、キッズステーションの2カ所の無認可の保育所がございます。これらの施設への補助につきましては、平成22年度から認可外保育施設の衛生管理の向上を図ることを目的としまして、保育士さん、調理師さんの細菌検査費用を補助しているところでございます。現状におきましては、本市の待機児童が生じていないために認可保育所並みの補助は現状では難しいと思われませんが、他市の状況などを調査研究してまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） 今の答弁に対する再質問でございますけれども、今、検査費用の補助しかないということは、そんな高額ではない、微々たる補助であろうと思うんですね。しかし、ここでやっている方たちは、一生懸命子育て支援をしてあげたいということがあるだろう

と思うんですね。これがなければ収容できるのか、待機がいなくなるのか。五、六十人、合わせて100人近くが無認可保育所に通っているというように承ったと思うんですが、そういうような観点で、私は、この施設等に対して、今、横浜市でも基準を見直したり、あるいは企業的なところに保育所を設置させたりというような形で、とりあえず待機児童をなくしたよということがあるわけでありまして、こういうことから考えて言えば、それ相応の補助をしながら、あるいは認可をとる手助けをしてあげるとか、いろいろなことをやるべきと思うんですが、その辺のお考えはいかがでありますか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 御答弁を申し上げたいと思います。

現状では、市内の保育所の定員が現在1200名ほどになってございます。実際に在籍しておりますお子さんの数が938という数字でございまして、充足率が78%という状況でございます。まだ市内の保育所に余裕があるという状況の中では、無認可の保育所に対する特定の支援は、現状では考えていないというのが状況でございます。

他市の例も幾つか調べてはございますが、他市では待機児童がおるところにつきましては、この無認可の保育所に対して、その自治体でできる限りの補助をしているようでございますが、本市におきましては、まだ定員に余裕がある状況の中でございますので、現状のままというふうな考えで今運営をしていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） 次の再質問をいたしますが、今度は高齢者についてでございますけれども、健康維持やボランティア団体によって高齢者が健康でいきいきと過ごせるような活動を社会福祉協議会等を交えながらやっております。病弱あるいは保護が必要な人たちについては、国あるいは地方自治体の補助がいろいろあるわけでありましてけれども、健常高齢者に対してはそれほどないわけで、元気で暮らせよという応援だろうと思いますが、こういう方たちの活動の中で、公共施設を使ったり、あるいは小学校を含めていろいろと楽しい健康維持のための活動しております。そういう中で、私のほうに寄せられたのが、非常に困るのは、学校の体育館等における洋式トイレが少ない、また、公共施設における公民館、福祉センター、あるいは文化会館等においても1つか2つしかないというような状況で、非常にその活動に参加しにくいというような声もなきにしもあらずと聞いております。今、一般家庭においては子供も既に洋式に慣れて、中には全てウォシュレットが設置されているという現状の中、和式で通しているということ自身が非常に子供にとっても、あるいは高齢者にとっても、足腰が弱いというよ

うな人にとっては非常に使いにくい、こういう状況があるわけでありまして、先ほども出たように、市民センターにおいてはトイレの改修が行われたということで、当然、洋式に変えたんだろうと思いますけれども、そのほかの地域の施設における設置状況はどうなっているのか、その辺をお尋ね申し上げたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 公共施設の洋式トイレの再質問について御回答申し上げます。公民館における洋式トイレの設置状況につきましては、中央公民館に身体障害者用を含め5基、本納公民館に2基、鶴枝公民館に1基を設置しております。設置の少ない本納公民館、鶴枝公民館につきましては、今後、和式トイレの一部を洋式トイレに改修するなどの検討をしてみたいと考えております。また、学校における設置状況につきましては、小中学校合計で931基のうち240基が洋式トイレとなっております。率にしますと25.8%でございます。今後の改修につきましては、耐震工事を予定している学校施設は耐震補強工事とあわせて実施します。今のところ平成27年度末までに30棟は完了する予定になっておりますけれども、完了しますと47%という状況になります。耐震補強工事を予定していない学校につきましては、これから必要性を勘案しながら計画的に実施してみたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 福祉センターの関係につきまして、洋式トイレの設置状況がどうなっているかという御質問にお答えを申し上げます。総合市民センターを含みます市内6カ所の福祉センターでは、各階ごとに一部洋式トイレを設置してございます。その中でも総合市民センターでは、昨年、大規模なトイレ改修を行いました。男性、女性、障害者用と合計21基全てのトイレを洋式化したしました。今後は、他の福祉センターにおきましても、利用される方の声を伺いながら、不便を感じることはないよう検討してみたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 東部台文化会館の洋式トイレの設置状況についてお答え申し上げます。東部台文化会館につきましては、1階の男女共用トイレに1カ所、1階、2階、3階の女子トイレにそれぞれ1カ所及び1階と3階にございます身障者用トイレにそれぞれ各1カ所の合計で6基の洋式トイレが設置されております。現在、男性からの洋式トイレの照会につきましては、身障者用トイレを案内して対応している状況であります。今後、洋式トイレの要望が多くなった場合につきましては、和式トイレからの改修等を検討してみたいと考え

ております。以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） 今、設置状況を聞きました。今後、計画的に改修していくとことでもあります。これもタダではできない、お金がかかる。そういう中で、非常に資金がないんだというようなことを言われるわけでありませけれども、これは必要に応じてではなくて、全部が洋式にする時代なんですね。和式というのを使える人がいるかどうかわからないくらい、そういうような時代ですから、これは計画的に順次洋式化していくというのが、方向性とすればそういう形をとっていくべきであろうと思いますので、そのように今後の対応をお願いしたいということで、次にまいります。

先ほど市長からもありましたが、高齢者の見守り事業等で、福祉関係も地域と連携をとりながら、ボランティアと連携をとりながら、あるいは社会福祉協議会と連携をとりながらということでありましょう。これは予算にもいろいろと載っているわけでありまして、そういう中で、単身高齢者というのがどのくらいあるかというのが、今まであまり聞いたことがないので、単身者がどのくらいいるのか、その方たちにどのような関係を持って対応しているのか、その辺をお尋ねしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。福祉部長 岡澤弘道君。

○福祉部長（岡澤弘道君） 単身高齢者数と高齢者の対応の状況ということでございます。現在、高齢者のうち単身高齢者の数は、住民基本台帳上で5327名でございます。高齢者人口のうちの21.9%を占めておる状況でございます。高齢者の方々への対応ということでございますけれども、平成21年度より単身高齢者の見守り事業というものを行っておりまして、65歳以上の単身高齢者世帯のほうに直接お尋ねしまして、高齢者の日常の状況等を確認し、市のほうで台帳をつくりまして、現在2715名の方の台帳を私どもでそろえて管理をさせていただいております。これらの台帳につきましては、今後いろいろ行いますネットワーク事業ですとか、そういったところ、また、地元地区の自治会ですとか民生委員の方々に必要な範囲での情報提供をしながら有効に活用し、単身高齢者の方の見守りを行っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） 次に、子育て支援です。私は、子育て支援に他市よりも、どこよりも厚く政策を実施することが茂原市における少子高齢化の、そしてまた人口減を食い止める一助になるよという話をしたことがあるわけでありまして、その折、私は給食費の無料化を図るこ

とで他市に先んじて進めるべきである、それによって茂原市は子育てに非常に力を入れている市であるというような観点から、若者が茂原市へ来てくれる、住んでくれる。先ほど市長からありましたように、雇用の増大ということもありますけれども、何か特色があって、子育てに非常に熱心、あるいは費用があまりかからないとか、いろいろなメリットを持つことによって茂原市へ住んで、勤めは東京都、千葉市、こういう若者も出てこないとは限らないという話をしてきたわけでありましたが、ところが、教育委員会の答弁は、現状維持ということでありました。予算がない、約3億円近くかかるということでありましょう。確かに大きな金額であります。私は、それを段階的に減らしていったらどうですかという提案をした思いがあります。今年100円、今年70円、あるいは今年100円とか、そういう形で何年かけて無料化を推進するという考え方を持つべきということをお話ししましたが、再度この問題、子育て支援ということの中でお尋ねをしておきたいと思えます。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。教育部長 鈴木健一君。

○教育部長（鈴木健一君） 子育て支援の特色のある取り組みとして給食費を無料にしたかどうかという再質問にお答え申し上げます。給食費につきましては、全国的には、人口が減少傾向にある幾つかの自治体で一部または全額を無料としているところがありますが、現状、千葉県内では実施している自治体はございません。本市において全額を無料とした場合、幼稚園、小学校、中学校の約6900人分で、年間に約4億円の財源が必要となります。これは給食費ですけれども、幼稚園、小学生は今1食270円で、大体年間1人5万4000円となります。中学生が315円で年間約6万3000円という数字になります。また、学校教育法第11条第2項において、学校給食の食材に要する経費は保護者が負担するとうたわれておりますので、現行どおりでお願いしたいというふうに考えております。よろしく御理解をお願いします。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） この問題は、そう答えるだろうと思っておりました。しかし、心の隅に置いておくべき事案だろうと思えますよ。市川市かどこかがそれを検討しているという話がありました。まだ実施はしてありませんが、そういうことの中で、今後、子育て支援、特色ある市政、こういう中では、財源を捻出しながら取り組んでいくべきだと思っておりますが、この問題につきましては、それでとりあえずおさめておきたいと思えます。

職員の登用・管理につきまして、女性職員をもっと登用していく、これを考えていくというのは大事なことなんです。ですが、女性にやる気がなければ登用できない、こういうジレンマもあります。いかに女性が働きやすい、自分の能力を発揮できる、福祉関係とか、そういうと

ころにおいてはどんどん能力を発揮させるような配置をしながら登用を図っていった、よりすぐれた、市民から喜ばれる市政をしていくべきと、このように思っておりますので、今後、この登用、11%では少なすぎるわけでありまして、15%、20%と増やしていくよう努力、また職員教育をすべきと思います。これは意見として述べておきます。

最後に、メガソーラー計画でございますが、これにつきまして、もう少し詳細にお話を聞かせていただきたい。私は、長生村のホームページでの募集、その要項を見ました。非常に細かく、最後の撤収まで責任の所在をはっきりと明記して募集をしているということが見受けられましたが、茂原市においては、そこら辺までまだいっていないような気がしております。設置者にすれば、最後の最後まで責任をどのように持たらいいのかという観点で取り組まなければいけない問題だと思うんです。ですから、その辺のところ、そしてまた、市の事業としてやるか、業者事業としてやるかという問題がありましたけれども、提案型ですから、業者が、いや、ここは市でやってくださいよ、ここからは我が社でやりますよとかという提案もあるかもしれませんが、その辺の取り組みはどのように考えているかお尋ねをしたいと思います。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） メガソーラーにつきましては、現在募集中であります。大きく分けて2つの事業のタイプがありまして、土地を貸して事業者に全てやっていただく方法と、リース方式で市が事業者になる場合、その後においても市が運営を委託する場合等、いろいろな方法がありまして、その提案につきまして、事業者の一番やりやすい方法で市のほうに提案をしていただく。市にとりまして一番ベストな案というか、わがままですけれども、そういうものを選択させていただきたい、そういう内容で提案申し上げております。

ちなみにですけれども、西部団地につきましては地形が山をしょっておりますので、非常に発電効率が悪いとか、まして農地転用が絡むという、かなり条件がよろしくありません。長生村に関しては、元の埋め立てしたところでフラットな地形でありますので、非常に事業者さんが設置しやすいと、そういう条件があります。そういう中で、逆に言うと、業者からの提案があるのかと逆に市のほうも心配しておりまして、ただ、今までも、幸いに、まだ正式な提案はいただいているんですけれども、数社から事業内容の説明等を受けておりますので、今後、よりよい案が提示されることを非常に期待しております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。竹本正明議員。

○22番（竹本正明君） この件につきまして、進捗状況が煮詰まれば、また議会のほうにも提示していただきたいと思っております。

以上をもって質問を終わります。

○議長（腰川日出夫君） 以上で竹本正明議員の一般質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。

午後 2 時 57 分 休憩

————— ☆ ————— ☆ —————

午後 3 時 15 分 開議

○議長（腰川日出夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、前田正志議員の一般質問を許します。前田正志議員。

（7 番 前田正志君登壇）

○7 番（前田正志君） もばら21の前田正志です。通告に従い、一般質問をさせていただきます。本日は5人目の質問者ということで、内容に重複が見られますが、どうぞよろしくお願いをいたします。

また、改選後、初めての議会ということで、当局に対しましては、さまざまな分野で基本的な認識をお伺いいたす予定でおります。どうぞよろしくお願いをいたします。

まず初めに、地域振興について伺います。

現在、政府が取り組んでいる経済財政政策の効果に関しまして、現状の経済情勢の認識を伺います。とりわけアベノミクスと呼ばれる一連の政策の茂原市をはじめとした本地域への影響や効果についてどのように分析をしておられるのかお聞かせください。

また、地域の振興についてどのように取り組むのか、さらなる企業誘致など具体的な施策があればお聞かせをください。

次に、圏央道の開通の効果についてお伺いをいたします。4月27日に待望の圏央道木更津東インターチェンジから東金ジャンクションまでの区間が開通しました。田中市長は、開通の効果についてさまざまな場面でアピールをされておられますが、実際に利用した生の感想、あるいは実感という部分で若干表現が弱いような気がしております。そこで、田中市長は実際に圏央道、新しい区間を御利用されたことがあるのでしょうか。あるのであれば、その感想をお聞かせください。市長という立場ではなくて、1人の利用者としての率直な感想をお聞かせいただければ幸いです。

続きまして、圏央道についてですが、4月の開通後、利用台数、利用人数、あるいはその他経済効果、そういったものがあればお聞かせください。まだ開通から日も浅いので数字が出ているかどうかはわかりませんが、圏央道の効果について分析と評価がございましたら、あわせ

てお聞かせをお願いいたします。

続きまして、人口増加のための施策について伺います。先ほど来、ほかの議員からの質問も出ておりますが、人口増加は大変重要な課題だと思っております。茂原市の人口は6月1日現在9万2584人となり、人口が減少する傾向にあるということでございます。私は、人口というのは魅力あるまちづくりのバロメーターの1つであると考えております。その地域に住みたい人が増えれば人口は増える、住みづらければ出ていってしまいますので、人口が減ることになるからです。茂原市の人口の増加、あるいは人口減少の抑制について以前にも何度かこの場でお伺いをいたしました。田中市長の認識をお聞かせください。

また、茂原市における取り組みについて、既に設置されている人口減少問題対策検討会議の内容も含めてお聞かせください。

次に、共通番号制度の導入準備についてお伺いをいたします。先ごろ、国会において、国民一人一人に番号を振るという共通番号制度の導入が決まりました。この制度につきましては、行政の運営上、効率化や公平性の観点から非常に有効であると同時に、個人情報の漏えいなど、さまざまなメリット、デメリットが指摘されております。そこで、茂原市において共通番号制度についてはどのような認識を持っておられるのかお聞きいたします。

また、制度の導入、2016年1月から開始というようにも聞いておりますが、制度の導入に向けた今後の流れについてお聞かせください。

2番目の大きな項目として、安心・安全な地域づくりについて伺います。

政府の最も重要な存在理由としては、国民の生命・身体・財産を守ることがあります。茂原市に当てはめるのであれば、茂原市民の安心・安全な生活を守ることでもできましよう。そこで、安心・安全な地域づくりにつきまして、田中市長の御認識をお聞かせください。

2番目に、先ほど来出ておりますが、茂原市の地域防災計画についてお伺いをいたします。現在見直しが進められています茂原市地域防災計画につきまして、見直しの経過と新計画における改善点をお聞かせください。

3番目に、耐震改修工事の補助事業についてお伺いをいたします。本年度から実施をされております木造住宅の耐震改修費の補助制度につきまして、これまで利用件数、補助された額、または問い合わせの件数など、それらの実績を踏まえてどのようにこの事業を分析、評価されているのかをお聞かせください。

4番目に、交通安全についてお伺いをいたします。交通安全の安心・安全な地域づくりに欠かせない重要な要素の1つと考えます。まず議論の前提としまして、交通安全についての御見

解と取り組みをお聞かせください。

また、昨年来、茂原市内で166カ所、通学路危険箇所の安全対策が実施されているということですが、その進捗状況をお聞かせください。

3番目の大きな項目として、子育て支援・医療、教育についてお伺いをいたします。

まず、基本認識として、子育て支援・医療、教育、これは主に人づくりというような観点で私は考えておりますが、これにつきまして茂原市の基本認識をお聞かせください。

先ほど小久保議員の質問でもありましたけれども、茂原市の子ども医療費の水準は千葉県に準じたレベルということをごさいます、言ってみたら、千葉県内の最低レベルということもできます。これについてはどのようにお考えでしょうか。

とりわけ、そういった状況ですので、近隣の市町村との格差、茂原市はこのところが非常に弱い、うちの町はこうだよ、うちの村はこうだよということで格差が生じているように感じております。このことについての御認識とあわせてお伺いをいたしたいと思っております。

2番目、予防接種について伺います。風疹の感染拡大が大きな問題となっております。国立感染症研究所のホームページによりますと、免疫のない女性が妊娠初期、おおむね20週ごろまでとのことをごさいます。この妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児に感染して出生児に先天性風疹症候群（CRS）と称される障害を引き起こす可能性があるということをごさいます。まず初めに、茂原市内の風疹の発生状況がもしわかればお聞かせください。

また、先ほどの竹本議員の質問でもありましたけれども、茂原市の風疹の予防接種に対する補助事業が行われるということをごさいます、概要をお聞かせください。

3番目に、小中学校における部活動についてお伺いをいたします。昨今、スポーツで有名な各地の高等学校などで教師による体罰、上級生をはじめとする部員によりますいじめ、暴力的指導などの問題が発生していると報道されております。また、残念ながら、日本のお家芸と言われてきた競技団体をはじめとする日本のスポーツ団体で相次ぐ不祥事が起こっておりまして、ファンのみならず、多くの国民が失望しているのではないのでしょうか。もちろんスポーツをはじめとしますさまざまな部活動で心身、心や体を鍛え、技を磨いて人間的な関係、努力をする、あるいは勝負に勝つ喜び、あるいは負けた悔しさ、多くの人生経験を積む、そういったことは大変意義のあることだと思っております。しかしながら、日本のスポーツ界には、言葉が適切ではないかもしれませんが、いわゆる体育会系というような過度な上下関係を押しつけ、個人の尊厳をないがしろにしてしまうというような風潮が蔓延しているのではないかと危惧しております。そこで、教育の場である学校における部活動の効果についてどのように考えて

おられるのかお聞かせをください。

あわせて、部活動における体罰、いじめなどの問題についてどのような御認識を持っておられるか、それから、茂原市においてはどのような具体策、防止に向けましての取り組みをされているのかをお聞かせください。

以上で1回目の質問を終わります。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） ただいまの前田正志議員の一般質問に対し当局の答弁を求めます。

市長 田中豊彦君。

（市長 田中豊彦君登壇）

○市長（田中豊彦君） 前田正志議員の一般質問にお答えさせていただきます。

地域振興について、基本認識ということで、現状の経済情勢の認識、アベノミクスの本地域への影響・効果についてどう思いますかということなのですが、現在の経済情勢につきまして、アベノミクスにより円安が進み、輸出産業については追い風が吹き、企業や金融市場は景気の好転に期待が高まっております。本地域におきましては、大手の輸出関連企業はこの円安により効果が出ているものと思っております。しかし、雇用面では4月のハローワークの有効求人倍率は0.46倍であり、前月と比較しましても若干下がっている状況であります。市内企業においては、いまだ具体的な効果はあらわれておりませんが、アベノミクスの三本の矢により、本地域の経済状況が好転することを期待するものであります。

次に、地域振興にどのように取り組むか具体的な施策はということなのですが、圏央道が開通したことによりまして、人とモノの流れも変わり、大きな波及効果が生まれるものと期待しております。この圏央道を活用して当地域に多くの人、モノを呼び込みたいと考えておりますので、中房総観光推進ネットワーク協議会など、周辺地域と連携を図り、観光振興にも力を入れていきたいと考えております。そして、企業誘致は地域振興の重要な施策の一つでありますので、引き続き私自身がトップセールスを積極的に行ってまいりたいと考えております。

次に、圏央道開通の効果について、市長は圏央道を利用したのか、その感想はということで、1人の利用者として御意見をということなのですが、圏央道につきましては、ゴールデンウィークの初日の4月27日に開通となり、偶然にも私の誕生日と重なり、生涯忘れられない日となったところであります。私も早速、連休中に利用したところでございますし、また、その後、北九州市へ出張等もした関係で使わせていただいたりしております。その感想につきましては、本市にとってまさに歴史的な事業であり、こんなにすばらしい高速道路が開通し、首都圏がとて身近になったと実感しているところであります。自宅からドア・ツー・ドアで羽田空港ま

で1時間切りまして55分で行きました。おそらく成田空港はもっと近まっているのかなと思っております。したがって、いろいろなところで話させていただいておりますが、両国際空港がある茂原市という地は、非常に地理的優位性は格段と増したと思っております。

人口増加についての市長の認識、取り組みはということなのですが、今後の人口動向は、市政発展の根幹にかかわる重要な問題であると認識し、減少傾向にある本市の人口対策について検討会議を設置し、プロジェクトチームにおいて具体的な施策の調査、検討を進めております。具体的な取り組みにつきましては、次期3か年実施計画に施策として盛り込み、その初年度である平成26年度当初予算に反映してまいりたいと考えております。この中で、個人的に思っているのは、1つとして、企業誘致の政策であります。そしてもう一つは、移住政策も視野に入れて動かなければいけないかなと思っております。交通の利便性、木更津市は人口が増えておりますけれども、高速バスを使った川崎、横浜、都内からの移住者がかなり増えている。鉄道を上回るバス便が出ておりますので、こういった高速バスの運行手段によっては、この茂原市にも相当波及効果、さらに人口も増えていくやもしれませんので、そういった交通手段をうまく利用して人口増に拍車をかけていきたい、こういう思いでもおります。

次に、安全・安心な地域づくりについての基本認識の中で、市長の基本的認識はということなのですが、安全・安心の地域づくりにつきましては、防災、防犯、交通安全、医療体制の4つの施策が重要であると認識しております。

まず、防災につきましては、防災力を強化し、災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。それには自助、共助、公助が一体となり、地域防災力の向上を図ることが重要であるとと考えております。

次に、防犯及び交通安全につきましては、犯罪や交通事故のない地域づくりは市民共通の願いであり、子供からお年寄りまで安全・安心な暮らしができるよう、警察署をはじめ関係機関との連携をさらに強化するとともに、自主防犯活動等による地域ぐるみの防犯体制の充実が重要であるとと考えております。

最後に、医療体制につきましては、公立の長生病院の一層の強化とともに、喫緊の医療課題であります小児救急をはじめとする救急医療体制のさらなる整備と、特に不足している産科医療の充実が重要であるとと考えております。

したがって、これらの施策を充実することにより、安全・安心な地域づくりがなされるものと考えております。

次に、交通安全についての見解と取り組みはということなのですが、交通事故は生命、身体

等への直接的な被害ばかりでなく、その家族や遺族の方、また、事故を起こしてしまった人の精神的苦痛や社会的、経済的負担などを考えると、絶対になくさなければなりません。これには市民一人一人が自分の身は自分で守るという意識を持ち、交通ルールの遵守と正しい交通マナー、地域ぐるみの交通安全対策を実践していくことが必要と考えております。茂原市では、交通安全の確保に関する基本理念、施策等を定め、市民の安全で快適な生活の実現に寄与することを目的とし、平成15年4月1日、茂原市交通安全基本条例を制定いたしました。これに基づき、平成23年度から平成27年度を計画期間とする第9次茂原市交通安全計画を策定し、市民の交通安全意識の高揚や交通安全を目指し、茂原市警察署や各関係機関と連携を図りながら啓発活動、道路交通環境整備等の総合的な交通安全施策に取り組んでおりますが、引き続き市民が望む安全で安心なまちづくりに努めてまいりたいと思っております。

次に、子育て支援・医療、教育についての基本認識はということなのですが、子育て支援につきましては、核家族化や共働き世帯が増えるなど家庭環境が大きく変わっていく中で、次代の社会を担う子供を安心して生み育てることができる環境を整備し、少子化の進展に歯どめをかけるための施策の充実に努めることが大切だと考えております。

次に、医療につきましては、子供の成長期にあわせて乳幼児健康診査及び予防接種等々、病気の予防と健康の増進を目的に各種施策に取り組んでおります。その上で、病気やけがをした場合には、子ども医療費助成事業により対応していくこととしており、子供の保健対策の充実と子育て世帯の経済的負担の軽減の上で重要な役割を果たしているものと認識しております。

次に、教育につきましては、将来を担う子供たちに生涯にわたりたくましく生き抜く力を身につけさせる大切な営みであると考えております。そのためには、耐震化をはじめ、安心・安全で学習しやすい施設等の整備、また、学力向上や個に応じた指導を推進するための人的配置が重要なことと考えております。

私からは以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 都市建設部長 鳩川文夫君。

（都市建設部長 鳩川文夫君登壇）

○都市建設部長（鳩川文夫君） 都市建設部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

地域振興についての御質問の中で、圏央道開通後の利用台数と経済効果についての分析とその評価との御質問ですが、まず、開通後の利用台数でございますが、開通後1か月間の日平均ですが、東金ジャンクションから茂原北インターチェンジ間で約5900台、茂原北インターから茂原長南インター間で約5800台、茂原長南インターから市原鶴舞インター間で約7000台、市原

鶴舞インターから木更津東インター間で約1万1000台でございます。また、経済効果とのことでございますが、県からの情報としましては、ゴールデンウィーク期間中の県内における代表的な観光施設や宿泊施設の利用者は約83万人で、前年度と比較して約3割増加しているとのことであり、これも圏央道効果がかなり影響しているのではないかと考えております。

次に、安心・安全な地域づくりについての御質問の中で、耐震改修工事の補助の実績とその評価についての御質問ですが、本市では、住宅の耐震化が地震による市民への直接被害を低減させる重要な施策と考えており、その促進を図るため、今年度より木造住宅耐震改修補助制度を創設いたしました。6月3日より募集を開始しておりまして、これまでに問い合わせが5件ございました。

なお、6月28日に耐震相談会を実施する予定となっておりますので、今後、相談件数や問い合わせも増えてくるものと考えております。さらに多くの方に本事業を活用していただけるよう、今後はホームページや自治会回覧、広報等により周知を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 総務部長 麻生英樹君。

（総務部長 麻生英樹君登壇）

○総務部長（麻生英樹君） 総務部所管にかかわります御質問に御答弁を申し上げます。

初めに、共通番号制度の導入準備等についてでございます。共通番号制度につきましては、去る5月24日に関連法が可決成立をいたしました。現時点では制度の詳細は示されておませんが、国が挙げているメリットとして、行政機関に対する諸手続きにおいて添付書類が不要になり、住民の皆さんの負担が軽減されるとしております。また、行政にとりましても他の行政機関等への個人情報の照会が容易になることにより、業務の効率化が図れるとされております。また、デメリットにつきましては、個人情報の不正取得、不正利用等につきまして不安視する報道がされておるところでございます。今後につきましては、平成27年秋ごろに個人番号を記載した通知カードを市民の皆様へ送付し、平成28年1月から順次番号の利用が開始されることとなります。また、平成29年7月からは、国や他の地方公共団体との個人情報の連携がされる予定となっております。本市といたしましては、番号利用の開始に向けて個人番号を付与するシステムの対応を行いますとともに、セキュリティ対策も考慮し、導入の準備を進めてまいりたいと考えております。

次に、茂原市地域防災計画の見直しに関する御質問でございます。地域防災計画の見直しにつきましては、まず、検討に先立ちまして、庁内での見直しに関する共通認識と機運の醸成を

図りながら現計画の問題点を洗い出し、また、被災地へ赴いた職員からの意見集約を行うなど、東日本大震災の検証も行い、見直しの視点として東日本大震災の教訓を踏まえた実効性の確保、あらゆる災害の可能性の考慮、減災に重点を置いた防災対策の推進を掲げまして、重点的な改善項目として、庁内体制の強化や医療体制の見直し、地域防災力の向上、女性の視点を取り入れた対策の推進など10項目の視点を中心に現在見直し作業を進めておるところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 教育長 古谷一雄君。

（教育長 古谷一雄君登壇）

○教育長（古谷一雄君） 教育関係の御質問にお答えをいたします。

初めに、安心・安全な地域づくりについての通学路の安全対策の進捗状況はという御質問にお答えをいたします。通学路の安全対策の進捗についてですが、緊急合同点検を実施した166カ所について、本年3月末までに対策が完了した箇所は122カ所となっております。残りの44カ所につきましては、今後も計画的に実施することとなっておりますが、中には道路改良中のものや用地買収にかかるもの、また、民有地の改善を要するもの等、解決に時間と多額の費用を要する箇所もございます。これらの対応につきましては、関係機関に早期の解決をお願いするとともに、当面の策として、各学校を通じて児童への注意喚起やボランティア等の見守り活動をお願いしているところでございます。今後とも、関係機関と連携を図りながら通学路のさらなる安全確保に向けた取り組みを行ってまいります。

次に、小中学校における部活動の効果についての御質問にお答えをいたします。小学校では金管楽器を中心とする吹奏楽をはじめ、陸上競技、サッカー、ミニバスケット、水泳、体操について各大会を目標として期間を区切って行われております。中学校では、運動系、文化系の数種の部活動に対して、多くの生徒が入学後の仮入部期間を経て、自分の選んだ部活動に加入し、3年生まで毎日活動をしております。御質問の部活動の効果としては、1点目として、自分の好きなスポーツや文化活動に参加することで楽しさや喜びを味わい、学校生活をより充実させることができる。2点目として、生涯にわたりスポーツや文化活動に親しむ素地をつくるとともに、体力や技能の向上を図ることができる。3点目として、学級や学年を離れての集団の中で自主性、協調性、連帯感などを育成し、よりよい人間形成を支援できる。4点目として、学習場面以外でも児童生徒に活躍する場を経験させることで自己肯定感や存在感を味わい、自信や希望を持たせることができる。以上のような効果があるものと考えております。

次に、部活動での体罰、いじめ問題等の認識と茂原市における対策はという御質問にお答え

をいたします。学校教育の一貫として行われる部活動において、体罰やいじめは絶対にあってはならないものと認識しております。しかしながら、昨年度1年間の部活動中の体罰について、中学校で4件の報告がありました。いずれの事案につきましても、当該生徒及び保護者に謝罪並びに事情説明を行い、理解を得ております。茂原市における対策といたしましては、各小中学校に部活動中を含めた体罰の防止を通知するとともに、去る4月23日には市内全ての教職員を対象に不祥事防止研修会を実施したところでございます。また、本年5月27日に文部科学省が取りまとめた運動部活動のあり方に関する調査研究報告書の中にガイドラインが示されておりますので、各学校に周知を図り、体罰やいじめの防止に努めているところでございます。さらに2名の指導主事が各学校を訪問した際に状況を聞き取るとともに、教職員の意識の高揚を図っているところであります。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 市民部長 森川浩一君。

（市民部長 森川浩一君登壇）

○市民部長（森川浩一君） 市民部所管にかかわります御質問に御答弁申し上げます。

子育て支援・医療、教育についての中子ども医療費の水準が県内最低レベルであることについての認識はとの御質問でございます。県内37市のうち本市と同様に県の助成基準に沿って実施している自治体は2市のみで、その他の市では独自で助成対象年齢などを拡大して実施しており、本市の医療費助成内容は県内では低水準にあると認識しております。

次に、近隣市町村との格差についての認識はとの御質問ですが、子ども医療費助成事業につきましては、長生郡内6町村の中で本市と同様に県の助成基準に沿って実施している自治体は1団体のみで、他の5町村は対象年齢、所得制限、限度額等において県の基準を上回って実施しており、市町村の制度間に差異が生じていることは認識しております。

次に、市内の風疹の発生状況はとの御質問ですが、千葉県感染症情報センターの発表によりますと、長生保健所管内の平成25年1月1日から平成25年5月29日までの風疹患者の累計は2例で、いずれも茂原市内の医療機関から報告されたものであります。

なお、2例の風疹罹患時期は2月、3月でございます。

次に、風疹予防接種への補助の概要についてとの御質問ですが、風疹ワクチン接種の助成につきましては、風疹の流行状況を踏まえ、特に重篤な影響を及ぼす可能性のある妊婦への感染の拡大を防止する観点から、県の風疹ワクチン接種緊急補助事業を活用し予防接種費用の一部を助成し、ワクチン接種の勧奨を図ることとしております。助成対象者は20代から40代の方で、妊娠を予定または希望する女性及び妊婦の夫といたします。助成額としては風疹単独ワクチン

は3000円、麻疹・風疹・混合ワクチンは5000円とし、7月1日から助成額を差し引いた額を医療機関窓口を支払う現物給付といたします。

なお、既に4月1日から6月30日までに接種された方につきましては、申請に基づき助成額を後日還付する償還払いといたします。

なお、本事業は風疹の大流行という特別な状況から、平成25年度限りの措置と考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 福祉部長 岡澤弘道君。

（福祉部長 岡澤弘道君登壇）

○福祉部長（岡澤弘道君） 福祉部所管にかかわります御質問にお答えを申し上げます。

子育て支援について、近隣市町村との格差についての認識はどの御質問でございます。子育て支援につきましては、近隣市町村の状況を全て把握しているわけではございませんが、保育所、保育園、学童保育などの利用料の軽減、また施設運営費の補助などで違いのあることは承知しておるところでございます。今後実施予定のあります子ども・子育て支援事業のニーズ調査により、本市の特性に合った施策の充実を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 再質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） お答えありがとうございました。

まず、地域振興について再質問をさせていただきます。まだこの地域には、あまりアベノミクスの影響は大きくないようでございます。また、圏央道の波及効果を利用して観光にも力を入れていただけるということで、大きな期待をしております。

さて、このアベノミクスの心配な面が、長期金利の影響があると思います。株価の乱高下によりまして長期金利の変動が生じます。長期金利が下がればありがたいんですけども、上昇した場合、市債の発行、そういった面におきまして、茂原市の財政へ影響があるかと思っておりますけれども、そのあたりの分析はいかがでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 当局の答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 長期金利の変動と市の財政への影響についての御質問ですが、市財政への影響でございますが、既に借り入れた固定金利分の市債については特に影響はございませんが、新規に発行する際の市債の金利については、長期金利に連動することから、その償還額に影響が生じるものと考えております。また、長期金利が上昇した場合は、企業の設備投資等にも大きな影響を及ぼし、税収の確保をはじめ、市の財政についても影響があることか

ら、今後の経済情勢を注意深く見きわめてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。アベノミクスということで、株が上がったとか円が安くなったと喜んではいられないというような状況というのがわかりました。

続きまして、先ほど圏央道を利用して引き続き企業誘致のトップセールスをというお話がございました。にいहार工業団地の地質調査が今年度から開始をされまして、企業誘致のチャンスが広がっております。繰り返しになるかもしれませんが、これまでの成果と今後の見通しについてお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 企業誘致の成果と見通しについてということでございますが、成果につきまして、先ほども何回か答弁させていただいておりますけれども、沢井製薬の新工場の誘致、ジャパンディスプレイの誘致にあたり、市長が申しております他県との競争がある中、市長自らのトップセールスで誘致することができたということで、最大の成果が得られたものと考えております。今後は、圏央道が開通いたしましたので、にいहार工業団地の企業ニーズがさらに高まるものと期待しております。今後も、自主財源の確保や雇用機会の拡大など、地域経済の活性化実現に向けて引き続き企業誘致に努めてまいります。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。さらなる企業誘致のほうを期待しております。

次に、中心市街地活性化の考えについて伺います。地域振興ということでございますけれども、何分、中心がさびれているようでは地域振興と呼べるのかなというようなことも思っております。とりわけ茂原駅前通り地域の土地区画整理事業、今見直しを進めているようでございます。また、以前に、市議会の場だと思いましたが、市長のほうから、医療機関を中心としたコンパクトシティ化というお話があった記憶がございます。この考えは大変示唆に富むものと考えておりますが、この中心市街地活性化、コンパクトシティについてお考えをお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） コンパクトシティでございますが、平成22年8月1日号の「市長が行く」で、病院を核としたコンパクトシティの形成によって中心市街地の活性化が図れないものかということで市長が書いております。これは一つの例示なんですけれども、それ

に加えて、最近、東日本大震災がありまして、さらに電力をコントロールするスマートシティ構想というのがそれに加わりまして、全国にまだ数カ所なんですけれども、いろいろ実証実験がなされております。ただ、スマートシティにしても、コンパクトシティにしても、やはり核となる大きな施設が必要ですので、基本的に施設を建設するのに大きな用地が必要になるということから、これを具体的に進めるということになりますと、非常に難しさがあると思います。ただ、将来のまちづくりの1つの方向性が示されておりますので、これをもとに、スマートシティ、コンパクトシティの考え方を踏まえつつ、今後も中心市街地の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。核になる土地があるということでございますが、その辺も含めて私も勉強していきたいと思っております。

続きまして、圏央道の利用の効果についてお伺いいたします。台数のほう、ありがとうございます。多いのか、少ないのかというと、実感がわからないんですけれども、県内の観光地で3割お客さんが増えたというようなことでございまして、一定の効果があったのかと思います。この圏央道の開通を一時のブームで終わらせるのではなくて、今後、継続的に活用していかなくてはいけないと思っています。圏央道の存在を今後どのように活用していくのか、具体的な施策がありましたらお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。経済環境部長 豊田正斗君。

○経済環境部長（豊田正斗君） 圏央道の具体的な今後の活用策ということでございますが、NEXCO東日本及び関係機関と協議しながら、現在実施中の圏央道が乗り降り自由で定額となっております、千葉圏央道開通記念パスというものがございます。これを夏休み期間中に利用できるように関係機関に働きかけてまいりたいと思っております。それにより、この長生地域、九十九里地域の観光振興につなげていきたいと考えております。以上です。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。夏休み、そういった記念パスがあるというのは、私も不勉強で、初めて知りましたので、ホームページや広報など周知を図っていただければと思います。

続きまして、高速バスのお話、先ほど市長からの御答弁もありました。私も先日、東京駅から茂原駅まで圏央道を利用しました高速バスを利用いたしました。片道の料金が1500円、平日の夜7時20分東京駅を出発しまして、8時50分ごろに茂原駅に着きました。所要時間1時間30

分ということで、J Rの快速電車より10分くらい、少々時間がかかりますが、しかも料金がJ Rより220円ほど高いという状況です。このような状況下、乗客が東京駅を出たときは7人、そのうち2人が鶴舞で、2人が長南で降りまして、茂原までは3人ということで、経営は大丈夫かなと、正直不安になりました。東日本大震災の際にJ Rが不通になりまして、都内から茂原になかなか戻れない、そういった帰宅難民になられた方が多くいらっしゃったと聞いております。私の知り合いにも、都内から白子行き的高速バスに乗って、それから茂原に帰ってきた、そういった方がおられました。災害時のこういった足の確保という面でも、こういった高速バスへの支援が必要ではないかと思いますが、そのあたりのお考えをお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 高速バスの支援の御質問ですが、高速バスへの支援策といたしましては、圏央道の開通に伴い、バス会社からバスターミナル用地の相談を受け、私どもで幾つかの候補地をお示しいたしましたが、設置には至りませんでした。また、今回の高速バスの増便、新路線につきましては、広報等により料金及び時刻表を掲載し周知に努めたところでございます。今後も、本市といたしましては、利用者の増加により高速バス路線が新設や増便されることは地域の活性化につながることから、支援策について検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。要望なんですけれども、白子町や睦沢町などは乗客が少ない路線バスの支援を行っております。例えば高速バスでも、鶴舞がありますから、市原市、長南町と共同しての支援、例えば回数券12枚つづりにして、10枚分の料分で12回乗れる。その余分な1枚分は会社、もう1枚分を市原市、長南町、茂原市で負担しますと、利用者が1万5000円、それを12枚で割ると1枚1250円、そうするとJ Rより若干安くなります。乗車時間はかかるんですけれども、必ず座れる、乗り換えがいらぬ、快速だったら乗り換えはいらぬんですけれども、そういったことで競争力がつくのかなと考えます。自治体間でどのように負担の割合をするかという課題もありますけれども、御検討いただけないかと思っております。

また、料金が下がってからも結構ですが、例えば職員の出張など、そういったときに高速バスの利用促進を図っていただけると、多少なりとも利用者が増えるのかなと思っております。

また、この圏央道につきましては、今2車線ですので、遅い車が走っているとなかなか追い抜くことができないというようなこともありますので、4車線の区間を、全部とは言いませぬ

けれども、増やせるように引き続き働きかけをお願いしたいと思います。

続きまして、人口増加のための施策を伺います。先ほどから話があります人口減少問題対策検討会議、それからそのプロジェクトチーム、こちらの進捗状況、先ほどのお話では、平成26年度の予算編成に反映させるということでございますけれども、取り組みの今後の状況をお聞かせください。具体的にどれくらいやっておられるのでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 検討会議及びプロジェクトチームの進捗状況という御質問ですが、現在、プロジェクトチームでは施策を5つの体系に分類いたしまして、1つといたしまして産業振興・雇用の充実、2つといたしまして地域の魅力増進や知名度の向上、3つ目といたしまして生活基盤の整備・充実、4つ目といたしまして子供を生み育てやすい環境の整備、5つ目といたしまして医療・福祉環境の整備・充実とし、それぞれの取り組みを検討しております。その後、プロジェクトチームの報告をもとに、検討会議において施策の優先度や財政状況などを考慮し、さらなる検討を重ね、具体的な取り組みとして盛り込んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。実り多い成果が上がるように期待をしております。

続きまして、移住への支援策ということで、先ほど市長からも御答弁をいただきました。私も何度かこの一般質問の場で移住を支援する施策、部署の設置をお願いしていたところがございますけれども、初めて前向きな答弁を聞いたような気がいたします。今後、具体的な支援策の導入をどのようにされるのか、もしわかれば教えてください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。企画財政部長 三浦幸二君。

○企画財政部長（三浦幸二君） 移住策の取り組みの御質問ですが、中長期的な人口増加に向けた取り組みとして移住を支援する施策は非常に重要であると認識しております。具体的な導入につきましては、今後、先ほど申し上げました5つの施策における移住支援の優先度や財政状況による実現性などを考慮し、その判断を行ってまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。中長期的ということでございますけれども、人口が増加するには出生数が増えるか転入者が増える、このどちらかしかありません。現在、

大幅な出生数の増加が望める状況ではあるとは思いませんので、転入者を増やす方向にいくのだらうとは思っております。こちらのほう、しっかりと今後対応をしていただきますようお願いいたします。

それでは次に、共通番号制度の導入について伺います。プライバシーの保護が皆さん一番心配な部分だと思いますけれども、現在もそうでしょうけれども、この辺のプライバシー保護についてはどのように取り組みをされているのかをお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 共通番号制度の導入にあたりましては、今後、国から個人情報をも適切に管理するために講ずべき措置を定めたガイドラインが示されることとなっております。したがって、そのガイドラインに沿って適切に対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、こちらのほうで効率化というのが図られる期待をしております。現在、戸籍とか住民票、所得の把握とか税金、医療、介護、いろいろな個人情報を管理されていると思うんですけれども、現在、コンピューターシステムに係る電算委託料と予算書に載っていますけれども、年間幾らくらいかかっているのかお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 平成25年度の当初予算における数字でございますが、基幹系システムの電算委託料は約3億1700万円ほどでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。3億円ということですが、この新しいシステムを使った場合、この委託料は増える見込みでしょうか、それとも減る見込みでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 国の試算によりますと、この共通番号制度を導入した場合、委託料につきましては基本的には増額するというふうにされております。したがって、今後、国から示されますシステムの詳細を踏まえまして準備を進めていくとともに、経費につきましても精査してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。現在、こういったシステムは1回受注をするとなかなか委託先を変えられないということでございますけれども、今回の新しいシステム導入を期に、現在の会社からほかのところへ切り替えるような、そういったお考えはございますか。それがまた可能でしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 先ほど申し上げました基幹系でございますけれども、委託先の切り替えが可能かどうかということにつきましては、過去にも検討をいたしております。しかしながら、業務の継続性、また連動性を考慮いたしますと、現段階までの検討の結論といたしましては、難しいものと考えております。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。なかなか難しいということで、わかりました。それでは、またパソコンについて1つ伺いたいんですけれども、現在、市役所のコンピュータはOSがウィンドウズのXPを使用していると思っておりますけれども、サポートの期限がまもなく切れるようですけれども、この後の対応、それからOSの変更などをしますとかなりのコスト増になるかと思うんですけれども、そのあたりの対応はいかがでしょうか。見積もりとかは出ていますでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） ウィンドウズXPのサポート期限が切れた後の対応との御質問でございますけれども、共通番号制度に関係する基幹系パソコンにつきましては、今年度中の機器の更新にあわせましてウィンドウズ7への切り替えを行う予定でございます。また、情報系のパソコンにつきましては、今年度以降、それぞれ機器の更新にあわせまして計画的に切り替えを行ってまいります予定でございます。コストに関しましては、切り替えはパソコン本体の更新とあわせて行いますので、コスト増はございません。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。プライバシーの保護の問題にもかかわるんですけれども、現在、庁内で私物のパソコンが業務で使われている例はありますか。例えば家で残業するような場合に、業務データを外部に持ち出す、そういったことがあるのか、また、それに対してはどのような取り組みをされているかお聞かせください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 現在、個人もののパソコンは利用されておりません。

次に、データの持ち出しへの取り組みにつきましては、USBフラッシュメモリ取扱要領というものを定めておりまして、個人で所有するUSBメモリの使用を禁止するとともに、市でパスワード機能及び暗号化機能を持つものを調達いたしまして、それを使用しております。また、使用するさいには使用簿への記載を義務づけておりまして、外部に持ち出す際は所属長の承認を必要とするなど適正な管理を行っているところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。かなり厳重に管理がされているようで安心いたしました。要望ですけれども、システムの切り替え時には、特に職員の皆さんに負担がかかると思います。過度な負担がかからないような配慮をお願いしたいと思います。

続きまして、安心・安全につきまして、圏央道は先ほど来出ているんですけども、過去、近畿地方、北関東地方など、高速道路が発達すると不審者も車に乗ってやってくるような事例があつて、連れ去り事件とか起こってしまつて、まだ解決をしていない事件もあるようでございます。これから夏場を迎えますので、特にインターチェンジの周辺、人気のない道、抜け道などがそういった被害の発生箇所になっているということでございますので、地域とか学校での啓発をお願いしたいと思います。

続きまして、地域防災計画、新しい計画の中に女性の視点を取り入れるというようなお話がございました。このあたり、女性高齢者、小さいお子さんを持つ御家庭の皆様、そういった方の意見を具体的にはどのように反映されているのか、お聞かせをください。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 全国知事会が実施いたしました女性・地域住民から見た防災対策のあり方に関する調査、その他、いろいろなもので女性用品、乳幼児用品、また高齢者等の介護食などの備蓄割合が低いことや、女性や子育てに配慮した避難所運営などのさまざまな課題があることが報告をされております。このことから、地域防災計画を見直す中で、重点項目の1つとして女性の視点も取り入れた対策の推進ということを掲げ、避難所運営や備蓄品の充実、災害時要援護者対策などにおいて、これらの調査結果による課題を反映した見直しを進めているところでございます。今後も関係機関からの意見聴取やパブリックコメント等によりまして、女性を含めた幅広い意見集約に努めまして見直しを進めてまいりたいと考えております。

○議長（腰川日出夫君） さらに質問ありませんか。前田正志議員。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。そういった視点も非常に大事だと思いますの

で、よろしくお願ひいたします。

そこで、今年の4月30日の読売新聞の報道で、千葉県内の市におきまして、成人用と乳幼児用のおむつ、それから女性の衛生用品などの備蓄があるかないかというのが記事になっておりまして、茂原市はこの3つともないというような報道でございました。先ほど備蓄の関係のお話もありましたけれども、そういった物資の種類や量は十分に確保されているとお考えなんですか。いかがでしょうか。

○議長（腰川日出夫君） 答弁を求めます。総務部長 麻生英樹君。

○総務部長（麻生英樹君） 備蓄物資の種類につきましては、主なものといたしましては、食料品ではクラッカー、アルファ米、炊き出し用の資機材ではやかんやカセットコンロ、生活用資機材では毛布やラジオ、救助用資機材では発電機や投光機などを備蓄しておるところでございます。また、数量につきましては、被災者を人口の10%と仮定して、食料品や飲料水は3日分を目標としているところですが、現状の備蓄量は食料品では78%、飲料水では77%となっております。不足分は災害協定を締結している企業等から協力を受けるなどして対応を図ることとしておるところでございます。お話のありました報道の衛生用品の本市での備蓄ゼロの対処といたしまして、生理用品やおむつ、ウェットティッシュなどについて購入の検討を進めておるところでございます。以上でございます。

○議長（腰川日出夫君） 前田議員に申し上げます。あと残り6秒であります。

○7番（前田正志君） ありがとうございます。その辺で終わりにしたいと思いますけれども、防災の関係、見直しをしっかりとお願いしたいと思います。またの機会に残りの部分をやりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（腰川日出夫君） 以上で前田正志議員の一般質問を終わります。

これもちまして、本日の議事日程は終了しました。

明日は午前10時から本会議を開き、一般質問を続行します。

本日は以上で散会します。御苦労さまでした。

午後4時20分 散会

————— ☆ ————— ☆ —————

○本日の会議要綱

1. 一般質問

1. 細谷菜穂子議員の一般質問並びに当局の答弁

① 市民生活について

2. 小久保ともこ議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 地域医療について
- ② 子育て支援について
- ③ 住宅行政について

3. 山田きよし議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 災害・減災に強いまちづくりについて
- ② 児童（たから）の集団通学登下校路の安全対策について

4. 竹本正明議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 少子高齢化社会における茂原市の取り組みについて
- ② 風疹予防ワクチン接種の補助について
- ③ 市職員の登用と職員管理について
- ④ メガソーラー計画のその後について

5. 前田正志議員の一般質問並びに当局の答弁

- ① 地域振興について
- ② 安心・安全な地域づくりについて
- ③ 子育て支援・医療、教育について

○出席議員

議長 腰川日出夫君

副議長 鈴木敏文君

1番	飯尾 暁君	2番	小久保 ともこ君
3番	田畑 毅君	4番	山田 広宣君
5番	道脇 敏明君	6番	佐藤 栄作君
7番	前田 正志君	8番	矢部 義明君
9番	平 ゆき子君	10番	金坂 道人君
11番	中山 和夫君	12番	山田 きよし君
13番	細谷 菜穂子君	14番	森川 雅之君
16番	ますだ よしお君	18番	伊藤 すすむ君
19番	深山 和夫君	20番	三橋 弘明君
21番	初谷 智津枝君	22番	竹本 正明君
23番	常泉 健一君	24番	市原 健二君

☆

☆

○欠席議員

なし

☆

☆

○出席説明員

市 長	田 中 豊 彦 君	副 市 長	長谷川 正 君
教 育 長	古 谷 一 雄 君	総 務 部 長	麻 生 英 樹 君
企 画 財 政 部 長	三 浦 幸 二 君	市 民 部 長	森 川 浩 一 君
福 祉 部 長	岡 澤 弘 道 君	経 済 環 境 部 長	豊 田 正 斗 君
都 市 建 設 部 長	鳩 川 文 夫 君	教 育 部 長	鈴 木 健 一 君
総 務 部 次 長 (総務課長事務取扱)	十 枝 秀 文 君	企 画 財 政 部 次 長 (財政課長事務取扱)	酒 井 宗 一 君
市 民 部 次 長 (市民課長事務取扱)	野 島 宏 君	福 祉 部 次 長 (社会福祉課長事務取扱)	矢 澤 邦 公 君
経 済 環 境 部 次 長 (環境保全課長事務取扱)	安 田 勝 彦 君	都 市 建 設 部 次 長 (土木建設課長事務取扱)	小 高 隆 君
都 市 建 設 部 次 長 (都市計画課長事務取扱)	佐久間 静 夫 君	教 育 部 次 長 (教育総務課長事務取扱)	中 山 邦 彦 君
職 員 課 長	三 橋 勝 美 君	企 画 政 策 課 長	鶴 岡 一 宏 君

☆

☆

○出席事務局職員

事 務 局 長	相 澤 佐
主 幹	岡 本 弘 明
庶 務 係 長	佐久間 尉 介